

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人 福寿会



挨拶

令和2年初頭から日本及び世界的に流行を始めた新型コロナウイルスですが、この3年間、スタッフと共にコロナウイルスの事業所内発生及びクラスターを抑えるべく懸命に努力をしてまいりました。

しかしながら、令和4年1月に久喜ことぶき苑で、また同年12月に福生ことぶき苑で入居者様を含めた大規模なクラスターを発生させてしまいました。

それ以前にも、スタッフ及びその家族の罹患はありましたが、入居者様にまで感染が拡大したこと、またコロナウイルス感染後のご入院中のご逝去などもあり、入居者様の安全と安心を3年間担保しきれなかったことに忸怩たる思いであります。改めてご逝去された方とそのご遺族様に心よりの哀悼と、また多大なるご心配をおかけいたしました関係者の皆様にお詫びを申し上げます。

また、クラスター発生時に、入居者様の入院受け入れや搬送をしてくださった医療関係者の皆様と、自身や家族への感染リスクと、その恐怖に負けず現場でケアにあたっていたスタッフに心より御礼を申し上げます。

さて、本年5月から5類感染症になり、いよいよ本格的にウイルスと共存する社会へと変化していきました。社会活動も活発化し、コロナ以前の社会様式に一気に戻ろうとしています。

各事業所でも、コロナ禍に控えていた新規顧客の獲得のための営業活動をはじめ、面会や一部行事の開催などを徐々にではありますが再開させております。各事業所とも特に利用率がこの3年間で著しく低下しておりますので、令和5年度はここを重点的に回復させるべく尽力しております。また、社会活動の再開により、一気に人材の不足が露呈しており、介護産業の人材不足は益々顕著になっております。近年見合わせておりました人材研修や外国人材の育成などにも取り組み、継続的に健全運営が適うよう努力をしてまいります。

ただ未だ高齢者などは感染をすると重症化するリスクが高く、また事業所内でクラスターとして多数の感染を起こす可能性も高いことから、十二分に留意をして新年度も改めて収益構造の改善とサービス拠点の安定化を図る所存であります。

どうぞ今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和5年5月27日
社会福祉法人 福寿会
理事長 大塚 壽子

令和4年度

事業報告書

介護老人福祉施設
短期入所生活介護

福生ことぶき苑

令和4年度福生ことぶき苑事業報告書

1. 全体

令和4年12月コロナクラスター発生

新型コロナウイルス感染症発生

利用者様：12月7日～1月7日の期間において、計23名が感染
(内、ショートステイ1名)

職員：12月2日～1月10日の期間において、計14名が感染

当初85名の入居者であったが、1月末には74名となった。

12月9日に予定していた入居者様用のワクチン接種も急遽延期となり、2月17日、2月24日に接種となった。

コロナ禍での施設での取り組み

・面会について

面会は、「LINE電話」、「窓ガラス越し面会」と「館内面会」の種類で、予約制にて実施しました。

・感染予防対策では、職員に資料を配布する他、動画配信の視聴にて周知しました。毎朝の体温測定・消毒・手洗い・うがい・マスクの常時着用など徹底しております。

また、物品の受け渡しについては、受付にて対応し、職員が配っており、業者の苑内への立ち入りをできるだけ控えるようにし、苑内へウイルスが入らない様配慮しました。職員に対しては、不要不急の外出は控えるよう協力を依頼しました。

・入居者様の新型コロナウイルスワクチンを苑内にて実施。

・ボランティアの受け入れは引き続き中止。

・職員を対象に毎週PCR検査を実施しました。

・全体で集まって行う恒例の行事は、ユニット毎で行う事で対応しました。

その他

令和4年7月6日に参議院議員選挙の不在者投票を行いました。

福生ことぶき苑

2. 介護部

施設目標「安心・安全な暮らし」

介護部目標「その人らしい心地良い生活が営めるよう、良質なサービスを提供」

【1B】

ユニット目標 「個別ケアを理解し、その人らしいあたりまえの暮らしが送れるよう支援する。」

具体的な行動計画

- ①入居者様の生活史を把握し、その人にあった役割を提供する。
- ②少人数での援助により隠れたニーズを探り、施設生活の充実を図る。
- ③コロナウイルス対応で外出が難しい為、嗜好品に囲まれ自宅での習慣を継続して行えるよう支援し、豊かな生活作りに取り組む。
- ④入居者様が生活していくうえで気軽に職員に声をかけてもらえるように忙しくても一度足を止めて話を聞く姿勢を大事にしながら信頼関係を築き、特に声掛けを重点的に職員の対応マナーの向上に努める。
- ⑤看取り期においては、安らかな最期が迎えられるように精神的ケアを重視して苦痛、不安の緩和に努める。入居者様と家族が充実した時間が過ごせるよう環境整備や日々の生活援助を行う。

【上記行動計画・取り組みの結果・評価】

- ① 自己意思で何かをしたいという方には、希望する行動・役割を実行できる環境を出来る限り整えているが、職員の側から掘り下げて入居者様へ提案・話し合いをするまでには至っていない。
- ② 十分な傾聴・様子観察を行う様に努めていたが、ニーズを探る際、職員の主観が入る事も少なからずあり、入居者様の希望を十全に汲み取った上での施設生活の充実を、100%行っていたとは言い難い。
- ③ 入居者様の希望時、嗜好品や要望する物品は、各部署と連携協議しつつ、家族にも相談し、可能な限り用意出来る様に対応出来ていたと思われる。
- ④ 基本的に行っていたと思われるが、コール・センサー等の呼び出しが重複したり、職員が付き添いをしなければ危険な入居者様が同時に訴えたり動き出した際などには、その場に関わったすべての入居者様に寄り添う事が出来なかったケースも少なからずある。

- ⑤ 看取り対応の入居者様の対応は、概ね計画通り行えていたと思う。ただ、コロナクラスター発生にて隔離状態になっていた時期等は、状況に因って入居者様ご本人や家族の要望通りの生活や、安心して過ごせる環境を提供出来なかった事もあった。

【2A】

ユニット目標 「入居者様がそれぞれに合った暮らしができる様、日々安全に配慮したケアに努める。」

ユニットミーティングやヒヤリハット・アクシデントにおけるカンファレンスにより再発防止と考えられる事故への予防策の配慮はできたと思われるが、入居様個々の生活基準に合わせたケアなどの配慮は人員不足やコロナ禍ということもあり達成できなかった部分もあり。今後の課題としても検討していきたい。

- ① 連絡ノート、ほのぼの等活用して職員同士情報を共有し、統一したケにあたる事で入居者様が安心して暮らせるよう努める。 → 一部の職員はわかったつもりでケアに当たり、周知・統一ができないこともあり。個々の職員への指導、助言で対応し達成できた。
- ② リハ実績表を活用し日々入居者様に生活リハを実施。やりがいを持って生活して頂けるよう努める。 → 概ね達成できた。自ら「わたしやるよ。」と話される方も。
- ③ ヒヤリハット、アクシデントを月ごとにまとめ記録。予防策等検討し事故防止に努め安全なケアの統一を図る。アクシデント発生時の効果測定を共有し改善に努める。
- 概ね達成できたと思われる。予防策に関しては直ぐに実行し、連絡帳への記入で周知、職員間での声掛けで情報を共有できた。原因不明の内出血などはあくまでも要因予想の予防策な為、果たして予防としてできるかは不明な為今後も検討していく方向。
- ④ コロナ禍における感染防止策を職員で実施し、入居者様の健康保持に努める。
- 罹患の可能性のある場合は速やかに感染対策を実行し感染を予防できた。
- ⑤ 日々の生活の楽しみの提供として、月に一回はユニットレクを開催する。季節を感じられるような催しや、入居者様がやりたいレクなどをお伺いし、生活の充実を図る。
- コロナ禍により接触禁止、感染予防として中止はあったが、概ね達成できた。

【2B】

ユニット目標「ユニット内で情報共有を行ない、安全かつ安心な充実された暮らしを送れるようにケア・個別での対応の見直しを実施していく。また、安心して生活を送れるように環境整備を行ない事故予防に努め、安全な生活環境を目指していく」

- ①毎月、フロアミーティングを実施しながら、入居者様の情報を共有化し、ケア方法の見直し・処遇内容の統一を図っていく。
→書面を含み実施しているが、コロナの影響で皆で集まったのミーティングはほとんど行えていない。また、職員の異動などにより、人員の確保が難しく行えない月もあった。
- ②ユニットケアの情報を職員間で共有・研鑽することでより深く、個別での暮らしの継続を図っていく。
→ユニットケアの情報を各職員に共有して、入居者様の生活スタイルにあった、苑での生活を行なえるように申し送りなどを活用し職員に周知を行なった。
- ③充実された暮らしを目指すため、入居者様の趣味・嗜好に応じたユニットレクを実施する。
→コロナの影響により、大々的なレクは実施できていないが、各ユニットでレクを実施行った。カラオケなどの両ユニットで集まったのレクは実施できていない。
- ④安全かつ安心な生活を過ごしていただくために、フロアミーティング時にヒヤリハット・アクシデントの振り返りを行ない、事故予防に努める。
→集まったのミーティングがほとんど行えていないため、振り返りも行えていないが、各月でヒヤリハット等をまとめて、各自で確認を行なっている。

【3A】

ユニット目標 「安心・安全な暮らしが出来るよう、生活環境を整備する」

- ①認知症ケアにおける環境支援の考え方についてフロア研修を実施し、環境が与える影響や効果などをフロア職員に学んでもらう。

→人員不足、職員の入れ替え、コロナ禍等の状況が重なりフロア研修実施出来ず。よって上記未達成。

②①を踏まえ、安心・安全な暮らしを送れるような環境とはどのようなものか、どのような取り組みが出来るかをフロアで考え実践していく。

→フロア研修を実施出来なかった為、都度職員間で話し合い入居者様にあった環境を整えるよう努めていたが、環境がどのようなものか、どのような取り組みが出来るかを話合う場は作れず。よって上記未達成。

【3B】フロア目標

「入居者様、ご家族様の意向に沿ったケアの実現」

具体的な行動計画

- ① 入居者様、ご家族様とのコミュニケーションを取りニーズを引き出す。
→コロナウィルス蔓延防止の為、居室での面会を実施しておらず、事務所前での面会の為、コミュニケーションは行っていない。入居者様に関しては、各職員適宜コミュニケーションをとってはいるが、ニーズまでは引き出せていない為、上記目標は未達成
- ② 安心・安全な暮らしを提供するに辺り、居室担当、リーダー、他職員から意見の情報共有を諮る為、連絡ノート、申し送りシートを活用、話し合いを行い、職員のケアの統一を行う。
→情報共有のツールとして、連絡ノート、申し送りシートと共有事項を2カ所に記載等擦る為、一つの媒体で情報共有が行えるよう、状況シートに記載する事、ほのぼのに入力する事を統一。
現在、実施後1年経過していない為、上記目標は未達成。
- ③ 入居者様居室の環境整備を毎月行い、生活しやすい環境を作っていく。
シート作成の上、記録を残していく。
→人事異動や職員の入れ替わりがあった為、毎月の環境整備は行えず、適宜実施としている。また、記録に関して記録が色々な所に保管されている事によって、読み取る事が出来ない事を防ぐ為にほのぼのに入力する事で統一。
実施後年経過していない為、評価出来ず、上記目標は未達成。
- ④ 日々の生活の中での楽しみを見出せるよう、居室担当中心に様々な物の提供をそれぞれ考え実施していく。

→人員不足等あり、生活の中での楽しみが見いだせていない。
また、それぞれで考える事等も浸透していない為、未実施。
よって、上記目標は未達成。

3. 医務部

事業目標に挙げていた評価

- 1) 健康診断、各疾患など必要とする利用者様の状態を往診医に報告し、検査、治療を行い苑でのくらしの継続に努めた。
 - 2) 疾患によっては苑での治療が困難と判断した場合は、ご本人にとって何が幸せなのか寄り添い共に考えご家族が治療を望まれた場合、医療機関と連携をとり通院、入院での治療を行った。
 - 3) ご家族が苑での看取りをご希望された場合、寄り添い傾聴し状態を徐々に受け入れられるよう努めた。穏やかに「最後の時」と迎えられようご家族の希望を聞き各部署へ伝達し各部署と連携しご家族のサポートを行った。
 - 4) コロナ感染に対する職員への指導、対策の発進を行った。
また発熱者、及び体調不良者に対して問診を行い出勤の有無の判断と感染予防の対策、指導を行った。
- R5年度も引き続き、入居者様、ご家族に寄り添い更なる努力をしていきたい。

4. 生活相談部

【生活相談部事業報告書】

① 実績

入所生活介護稼働率 : 85.7%
短期入所生活介護稼働率 : 24.9%
入所件数 : 11件
退所件数 : 22件

○入所生活介護

令和5年2月よりライフフル介護・オアシス介護に広告が掲載されたことにより、入所の問い合わせが集中した。3月の問い合わせ67件、見学28件、入所申込17件。それに対し、ご入所頂くまでの過程をスムーズに進め、速やかに入所して頂けるよう努めた。入所後はユニッケアの利点を十分に生かせるよう、日常生活動作や医療に関する情報、生活背景や趣味・嗜好など、出来る限りの

情報の収集を意識的に行い、事前面接表に記載し入所後の生活に反映できるよう周知に努めてきた。コロナ感染予防対応の一環としての面会制限について、入所前にご家族に対し面会制限が掛かる事も伝え、ご理解を得られたので大きなトラブルなく進めることが出来た。

○短期入所生活介護

新型コロナウイルス感染症のクラスター発生に伴い受け入れを中止していたが、令和5年2月より受け入れ再開。居宅介護支援事業所・ご利用者・ご家族に対し、感染予防対策を説明してご理解いただき、リピーター利用が徐々に戻り始めた。

○その他

生活相談員2名とも令和5年1月からの新任であるため、業務把握途中での入所問い合わせ集中に戸惑いながらも積極的に入所業務に取り組んできた。又、入所されている方の生活相談業務、ご家族からの相談業務にも、他部署の協力を得ながら取り組んできた。

反省点としては、ご逝去に伴う退所が集中したことにより実績は伴っておらず、次年度の課題として考えたい。

①実績

入所生活介護稼働率 : 89.04%

短期入所生活介護稼働率 : 33.70%

入所件数 : 17件

退所件数 : 24件

入所申込件数 : 29件 (内、西多摩特養ガイド : 5件)

②入所生活介護

生活相談員として、新規入所に結び付く前からの対応として、入所相談時や事前面接時にヒアリングを中心に元々の生活における生活習慣や本人様の趣味・お好きだったこと等の情報を収集し、事前面接表への記載を行い判定会議等で発信することで、入所後の生活の中でも少しでも充実した生活の一助となるよう努めてきた。

又、入所後の生活においてはラウンド時の関わりやご家族からのお話を通じて、必要と思われる情報については適宜発信することで、その方にとっての個別ケアに繋げる一助になるよう取り組んできた。

年間稼働率目標に関しては98.5%を目標にしてきたが、コロナ禍にあることも影響しているが、生活相談部自体の営業不足の結果として、入所申込件

数も前年度より一25件と低稼働の要因になってしまった。

併せて、入所検討委員会に関しては感染症対策の為、書面開催のみに留まっている。

尚、各機関との関係強化を図る観点からWeb開催ではあるものの、東社協生活相談部会秋川ブロックのブロック会に参加をすることで、近隣施設との間で情報共有の機会の確保に努めた。

③短期入所生活介護

今年度はコロナ禍にあることから、受け入れ等も慎重になってしまったこともあるが、各居宅介護支援事業所への営業不足等が低稼働になった大きな要因と考える。

④その他

後進育成を目的に本来であれば実習生の受け入れ等行っていく予定だったが、今年度はコロナ禍であることから、中止をせざるおえない状況となってしまった。

生活相談部全体の反省点として、体制的な課題もあり他部署に協力をして頂きながらの年度となってしまったことから、次年度の課題として再度業務の見直しを含め再構築していく必要があると考える

福生ことぶき苑 職員の状況(令和4年3月末現在)

	常勤		非常勤		資格取得者	
	職種	人数	職種	人数	資格名	人数
福生ことぶき苑 (特養)	統括	1名	介護職員	17名	国家資格	
	施設長	1名	介護職員(派遣)	1名	社会福祉士	3名
	事務部長	1名	洗濯・掃除等	2名	介護福祉士	32名
	事務員	3名	運転手兼営繕	1名	正看護師	3名
	生活相談員	2名	宿直員(派遣)	1名	管理栄養士	1名
	介護(介護長、副介護長)兼F	2名			衛生管理者	2名
	介護(ユニットリーダー)	8名			都道府県	
	他介護職員	21名			介護支援専門員	4名
	看護職員	4名			准看護師	1名
	管理栄養士	1名			機能訓練指導員(柔道整	1名
	機能訓練指導員	1名				
	介護支援専門員	1名			その他民間	
	センター長	1名	介護職員	3名	上級救命	8名
	介護職員	1名	機能訓練指導員看護	0.5名	防火管理者	2名
	合計	48名	合計	25.5名	ヘルパー1、2級、初任者	19名
				実務者研修	0名	
常勤平均年齢	43	非常勤平均年齢	39	全体平均年齢	46.0	
介護職員常勤換算	33.5名	介護福祉士常勤換算	24.1名	看護職員常勤換算	4名	

デニ宮

行事・活動報告

月	全体行事(各ユニット) 内容	ユニットレク 件数
4月	開苑祭	1B お花見 2A チヂミ作り 2B ユニットレク 3A パンケーキ
5月	職員健康診断	1B 和菓子バイキング 2A アメリカンドック作り 2B カラオケ 3A 明石焼き
6月	入居者様健康診断	1B 北海道関連飲食会 2A あんみつ作り 2B カラオケ 3A 百寿のお祝いと一緒にティーパーティー
7月		1B 映画鑑賞会 2B ユニットレク(カラオケ) 3A ドーナツバイキング 3B 7月の誕生日会
8月	夕涼み会 (ソフトクリーム会)	2A 百寿お誕生日会
9月	敬老祭	2A おはぎ作り 2B ユニットレク 3B 9月の誕生日会
10月	秋刀魚会	2B おやつバイキング 3A ケーキバイキング 3B おやつ作り
11月	インフルエンザ予防接種	2A おでん作り 2B デザートバイキング 3A スイートポテ ト 3B 百歳誕生日会
12月	クリスマス会	※新型コロナウイルス感染症クラスター発生
1月	元旦祭、書初め、初詣(福生ことぶき苑内)、正月喫茶、鏡開き	※新型コロナウイルス感染症クラスター発生
2月	節分祭	2A たこ焼き会 3A 台湾カステラ
3月	雑祭り(食事のみ)	2A タイ焼き 2B 春のおやつバイキング

全体行事は各フロアにて実施。

勉強会

実施日	内容	担当者・講師	参加人数										
			施設長	事務	看護	介護支援 専門員	相談員	管理栄養士 栄養士	機能訓練 指導員	介護	デイ	合計	
4月	救急対応について	書面									7		7
5月	食事について(口腔ケアを含む)	書面									7		7
6月	食中毒について(感染症)	書面									7		7
7月	高齢者の対応と接遇(身体拘束・虐待含む)	書面									7		7
8月	褥瘡対策について	書面									36		36
9月	事故防止について(ヒアリング検討)	書面									36		36
10月	看取りケアについて	書面									40		40
11月	感染症対処方法について	書面									35		35
12月	事故防止について(アクシデント検討)	書面									39		39
12月	感染症について	書面									39		39
1月	身体拘束について(接遇・虐待含む)	書面									40		40
2月	虐待について(接遇、身体拘束を含む)	書面									39		39
3月	看取りケアについて	書面									36		36
													0
													0
													0
													0
													0
													0

※新入職員研修を除く

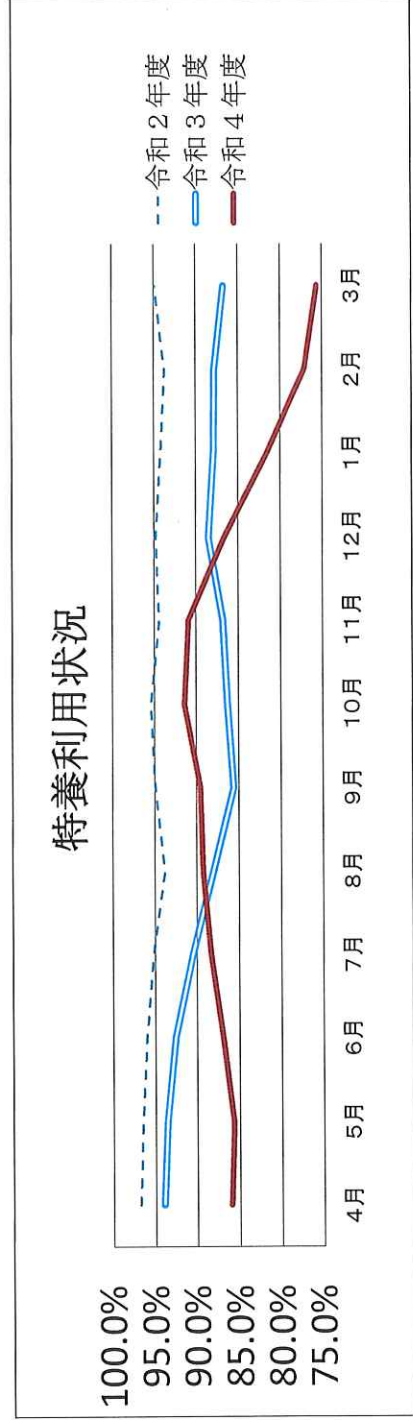
令和4年度 福生ことぶき苑 会議・クラブ活動

会議	毎月	1回	運営会議
	毎月	1回	リーダー会議
委員会	毎月	1回及び随時	入所検討委員会
		随時	苦情対応委員会(令和1年度は実施なし)
	毎月	1回	事故対策委員会
	毎月	1回	給食委員会
	毎月	1回	防災対策委員会
	毎月	1回	たん吸引等実施委員会
	毎月	1回	褥瘡対策委員会
	毎月	1回	身体拘束委員会
	毎月	1回	広報委員会
	毎月	1回	ボランティア委員会
	毎月	1回	リハビリ・レクリエーション委員会
	毎月	1回	サービス改善検討委員会
	毎月	1回	安全衛生管理委員会
	毎月	1回	衛生委員会
4・7・9・10・12・1・2月			
	毎週	木・金	感染対策委員会
	毎月	3回	ケアカンファレンス・栄養ケアカンファレンス・機能訓練カンファレンス
ミーティング 係	毎月	1回以上	リーダーミーティング
	毎月	1回	ユニットミーティング
	毎月	1回	排泄・清掃係
	毎月	1回	食事係
	毎月	1回	入浴係
	毎月	1回	行事係
	毎月	1回	勉強会係
	毎月	1回	書道・華道・音楽クラブ
	クラブ		

介護老人福祉施設 利用者数実績

特養稼働率

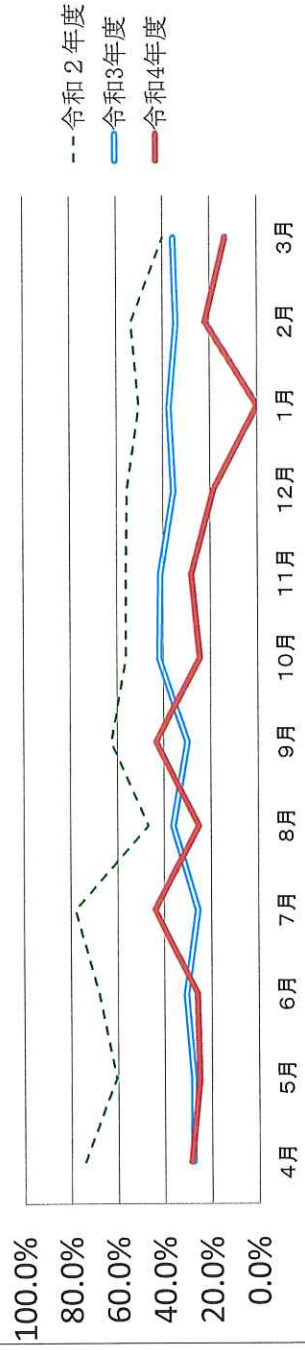
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/合計
平成17年度	11.8%	28.0%	51.2%	71.0%	73.1%	71.6%	73.0%	75.1%	78.7%	80.1%	81.1%	85.0%	65.0%
平成18年度	87.6%	90.9%	92.6%	91.3%	91.3%	92.7%	93.0%	94.6%	93.3%	92.1%	94.4%	94.9%	92.4%
平成19年度	94.9%	97.7%	98.1%	95.1%	95.6%	96.8%	97.2%	97.6%	97.7%	99.3%	99.6%	96.2%	97.2%
平成20年度	96.8%	97.9%	97.9%	98.1%	97.7%	97.7%	96.8%	97.6%	98.4%	97.0%	96.5%	97.1%	97.5%
平成21年度	98.3%	98.9%	99.2%	99.0%	99.3%	98.9%	98.4%	97.2%	95.2%	96.9%	97.5%	98.3%	98.1%
平成22年度	97.0%	96.4%	97.3%	95.2%	98.8%	98.1%	97.9%	97.7%	97.0%	95.3%	96.4%	97.0%	97.0%
平成23年度	99.2%	98.0%	97.3%	97.2%	98.5%	98.1%	99.4%	98.9%	99.3%	98.5%	98.0%	98.5%	98.4%
平成24年度	99.6%	98.4%	99.3%	99.7%	98.6%	99.0%	98.5%	97.5%	96.8%	96.8%	98.2%	95.5%	98.2%
平成25年度	99.8%	99.1%	98.7%	98.0%	98.7%	98.1%	97.9%	98.1%	97.3%	97.9%	99.6%	98.5%	98.5%
平成26年度	98.2%	97.8%	99.6%	99.6%	99.8%	100.0%	99.5%	98.1%	98.2%	97.8%	98.8%	98.0%	98.8%
平成27年度	97.2%	99.2%	98.3%	97.7%	97.7%	97.6%	97.7%	98.2%	92.8%	91.4%	91.3%	93.5%	96.1%
平成28年度	92.8%	90.4%	89.6%	94.5%	92.1%	91.8%	90.1%	89.4%	93.6%	96.5%	94.4%	96.4%	92.6%
平成29年度	97.4%	97.1%	97.8%	96.2%	98.8%	99.5%	100.0%	99.4%	97.7%	94.3%	94.7%	95.9%	97.4%
平成30年度	96.7%	92.9%	92.7%	96.0%	96.8%	94.8%	96.7%	94.6%	96.2%	92.5%	88.7%	92.0%	94.2%
令和1年度	90.5%	92.7%	91.4%	94.1%	97.5%	97.2%	97.4%	95.2%	96.2%	97.0%	96.6%	96.5%	95.2%
令和2年度	96.8%	96.5%	96.0%	95.2%	93.8%	94.9%	95.4%	94.4%	94.8%	94.2%	93.7%	94.9%	95.1%
令和3年度	94.0%	93.6%	92.6%	90.5%	88.0%	85.6%	86.3%	86.8%	88.5%	87.9%	87.8%	86.7%	89.0%
令和4年度	86.0%	85.7%	86.9%	88.3%	89.2%	89.5%	91.4%	90.9%	86.6%	81.6%	77.1%	75.6%	85.7%



短期入所稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/合計
平成17年度	22.0%	31.6%	11.3%	29.7%	42.6%	57.3%	47.1%	58.0%	72.3%	91.6%	81.1%	85.0%	52.5%
平成18年度	38.0%	93.5%	104.0%	92.3%	32.3%	62.0%	54.2%	66.0%	64.5%	31.0%	94.4%	94.9%	68.9%
平成19年度	82.7%	62.6%	46.7%	56.8%	77.4%	79.3%	54.2%	58.7%	91.0%	88.4%	99.6%	96.2%	74.5%
平成20年度	78.7%	89.7%	94.7%	87.7%	90.3%	70.0%	38.1%	52.7%	52.9%	67.1%	96.5%	97.1%	76.3%
平成21年度	53.3%	63.2%	57.3%	53.5%	80.6%	70.7%	51.0%	46.0%	58.7%	54.8%	97.5%	98.3%	65.4%
平成22年度	64.7%	67.1%	72.7%	96.8%	92.3%	78.7%	59.4%	62.0%	63.2%	60.6%	96.4%	97.0%	75.9%
平成23年度	68.7%	72.3%	50.7%	63.2%	93.5%	96.0%	89.0%	89.3%	121.3%	80.0%	98.0%	98.5%	85.0%
平成24年度	74.7%	61.9%	66.7%	85.2%	72.9%	78.0%	85.2%	109.3%	70.3%	86.5%	97.9%	78.1%	80.6%
平成25年度	68.0%	77.4%	70.7%	68.4%	71.0%	81.3%	79.4%	76.0%	74.8%	85.8%	100.0%	86.5%	78.3%
平成26年度	87.1%	80.7%	80.7%	74.2%	73.5%	95.3%	91.6%	90.0%	72.3%	72.3%	94.3%	84.5%	83.0%
平成27年度	65.3%	78.1%	79.3%	65.8%	71.6%	64.7%	69.7%	90.0%	88.4%	80.6%	122.1%	93.5%	80.8%
平成28年度	85.3%	113.3%	77.4%	81.9%	79.4%	78.0%	85.8%	99.3%	96.8%	62.6%	64.3%	56.8%	81.7%
平成29年度	61.3%	86.5%	81.3%	75.5%	71.0%	68.7%	69.7%	87.7%	85.2%	32.9%	55.0%	54.2%	69.1%
平成30年度	52.7%	63.2%	82.0%	69.0%	73.5%	73.3%	65.2%	80.7%	66.5%	66.5%	70.0%	69.7%	69.4%
令和1年度	68.7%	64.5%	66.0%	70.3%	63.2%	68.0%	71.6%	81.3%	81.3%	78.7%	77.9%	73.5%	72.1%
令和2年度	74.2%	60.7%	68.0%	78.1%	46.7%	62.6%	56.1%	56.0%	55.5%	50.3%	53.6%	40.0%	58.5%
令和3年度	28.0%	27.7%	30.7%	25.8%	36.1%	30.0%	41.9%	41.3%	35.5%	37.4%	34.3%	35.5%	33.7%
令和4年度	28.7%	25.2%	26.0%	43.9%	25.2%	43.3%	24.5%	28.0%	18.7%	0.0%	22.1%	13.5%	24.9%

短期入所利用状況



入所者の在籍状況及び理由別入退所(令和4年度)

	入所					退所							
	在宅	医療機関	社会福祉施設	介護老人保健施設	その他	計	在宅	長期入院	社会福祉施設	介護老人保健施設	死亡	その他	計
4月		1				1					2		2
5月						0							0
6月	1				1	2							0
7月				1	1	2					2		2
8月				1		1							0
9月				1		1							0
10月					1	1							0
11月						0					2		2
12月						0					4		4
1月						0					7		7
2月	1					1					3		3
3月	1	1				2	1				1		2
計	3	2	0	3	3	11	1	0	0	0	21	0	22

(注1)医療機関は、療養型を含む。

(注2)その他は、短期入所から引き続き入所を含む

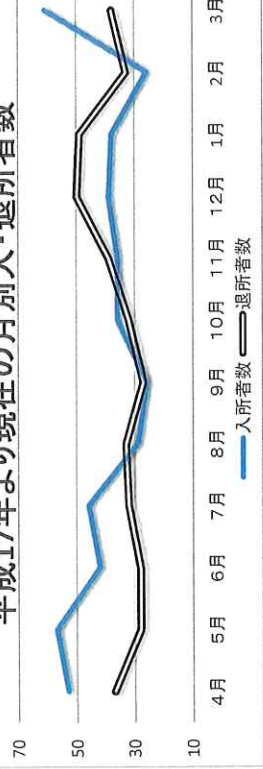
入所の人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成17年	20	20	21	11	1	0	4	1	4	3	0	5	90
平成18年	5	4	0	0	3	2	2	2	0	2	3	3	27
平成19年	1	4	0	0	3	0	4	2	3	1	1	6	25
平成20年	2	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	3	11
平成21年	2	0	1	0	1	0	1	1	3	6	2	3	20
平成22年	3	1	1	1	0	1	1	2	1	2	2	3	18
平成23年	3	2	5	4	3	4	1	3	1	3	3	4	36
平成24年	1	3	2	2	1	2	3	5	1	3	1	7	30
平成25年	1	2	0	3	3	1	3	2	3	3	0	1	22
平成26年	3	5	1	1	1	0	1	3	2	4	1	3	25
平成27年	1	3	1	3	1	1	5	1	4	4	2	3	29
平成28年	2	4	3	5	2	3	2	3	7	1	3	5	40
平成29年	2	2	0	3	2	1	0	0	1	3	1	3	18
平成30年	1	2	3	3	2	2	2	5	0	1	1	4	25
令和1年度	2	2	2	5	4	3	1	0	4	1	1	1	26
令和2年度	3	0	0	1	1	4	2	1	2	0	3	2	19
令和3年度	0	3	0	2	0	0	3	2	2	1	1	3	17
令和4年度	1	0	2	2	1	1	1	0	0	0	1	2	11
入所者数	53	57	42	46	29	26	36	36	39	38	26	61	373

退所の人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成17年	0	1	1	0	3	0	1	0	1	1	0	1	9
平成18年	0	2	0	3	1	1	2	2	0	0	2	2	18
平成19年	1	0	2	2	1	2	1	3	1	3	4	3	23
平成20年	1	0	0	1	2	1	0	0	2	1	2	0	10
平成21年	1	0	0	1	1	0	2	3	3	4	1	3	19
平成22年	2	2	0	1	1	1	0	2	3	2	2	3	19
平成23年	1	5	6	2	2	4	1	2	2	3	4	2	34
平成24年	2	3	1	2	2	1	4	5	2	2	1	7	31
平成25年	1	2	2	3	3	3	4	2	5	3	1	2	31
平成26年	5	2	1	1	1	0	2	4	2	3	2	3	26
平成27年	2	0	3	3	1	3	2	5	8	3	2	1	33
平成28年	6	2	3	1	7	1	5	2	2	2	2	2	35
平成29年	5	0	1	2	0	1	0	1	5	2	2	0	19
平成30年	2	6	1	1	2	2	4	1	3	7	0	2	31
令和1年度	2	2	3	1	1	3	2	3	0	2	2	1	22
令和2年度	2	0	1	2	2	2	2	2	1	3	1	2	20
令和3年度	2	1	3	4	3	2	0	2	1	2	2	2	24
令和4年度	2	0	0	2	0	0	0	2	4	7	3	2	22
退所者数	37	28	28	32	33	27	32	39	50	49	33	38	288

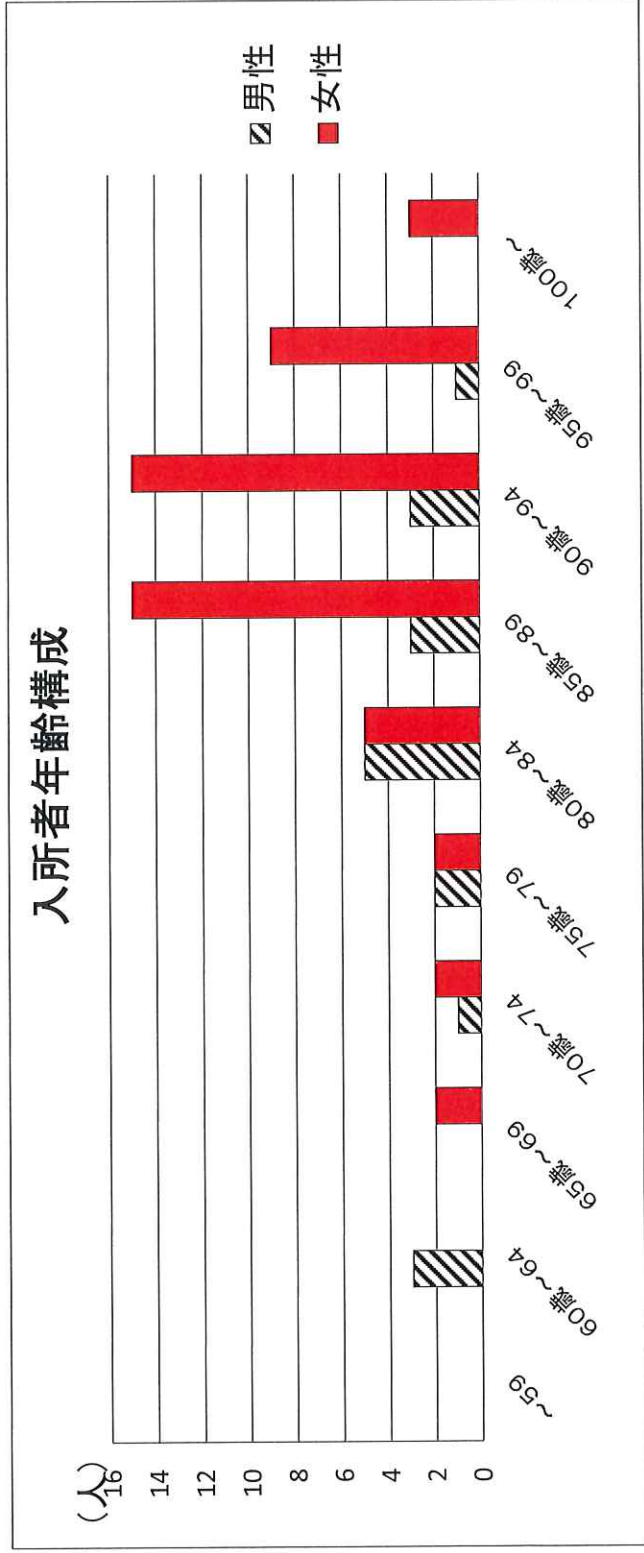
平成17年より現在の月別入・退所者数



福生ことぶき苑 特養利用者状況 (令和4年3月末現在)

	～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳～94歳	95歳～99歳	100歳～	合計	
	男	0	3	0	1	2	5	3	3	1		0
女	0	0	2	2	2	5	15	15	9	3	53	
合計	0	3	2	3	4	10	18	18	10	3	71	
【最高年齢】												
男	96	62	65	男	80.3	全体	【平均在所期間】					4.0 (昨年3.9)
女	100	65	65	女	88.8	86.8	【平均在所期間】					
【平均年齢】												
3年2ヶ月 (R2とR3は3年8ヶ月)												

入所者年齢構成

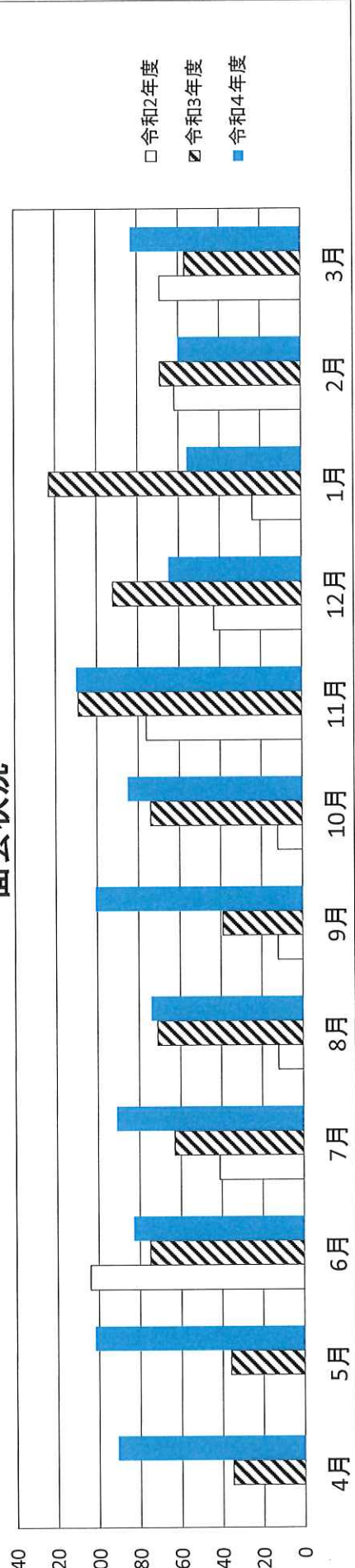


介護度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度
介護度	3.9	4.1	4.1	4.1	4.0	3.9	3.9	4.0	4.0	3.8	3.6	3.5	3.4	3.2	3.0

面会状況

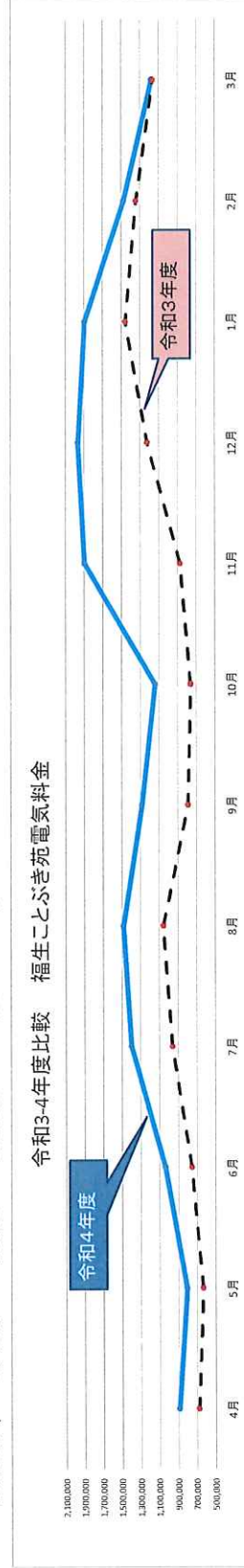
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
19年度	443	329	492	424	416	421	427	401	396	431	363	400	4,943	412
20年度	406	432	388	365	390	355	348	400	423	360	293	334	4,494	375
21年度	351	406	401	356	407	434	390	385	423	394	328	372	4,647	387
22年度	333	413	370	385	375	343	346	347	376	346	297	303	4,234	353
23年度	363	340	407	364	373	421	432	346	420	450	328	369	4,613	384
24年度	383	371	362	329	365	399	423	495	448	458	379	396	4,808	401
25年度	443	492	413	440	380	410	323	402	391	387	295	407	4,783	399
26年度	431	368	362	345	351	306	300	349	367	372	301	342	4,194	350
27年度	324	424	380	368	401	372	388	411	332	278	241	274	4,193	349
28年度	347	382	390	418	374	326	326	308	436	438	214	287	4,246	354
29年度	397	324	271	351	356	342	328	342	372	219	264	458	4,024	335
30年度	395	361	318	341	358	288	248	265	368	412	250	247	3,851	321
令和元年度	420	475	360	492	551	552	346	379	450	473	332	6	4,836	403
令和2年度	0	0	104	41	12	12	12	76	43	24	62	69	455	38
令和3年度	35	36	75	63	71	39	74	109	92	123	69	57	843	70
令和4年度	91	102	83	91	74	101	85	110	65	56	60	83	1,001	83

面会状況



令和4年度電気使用量

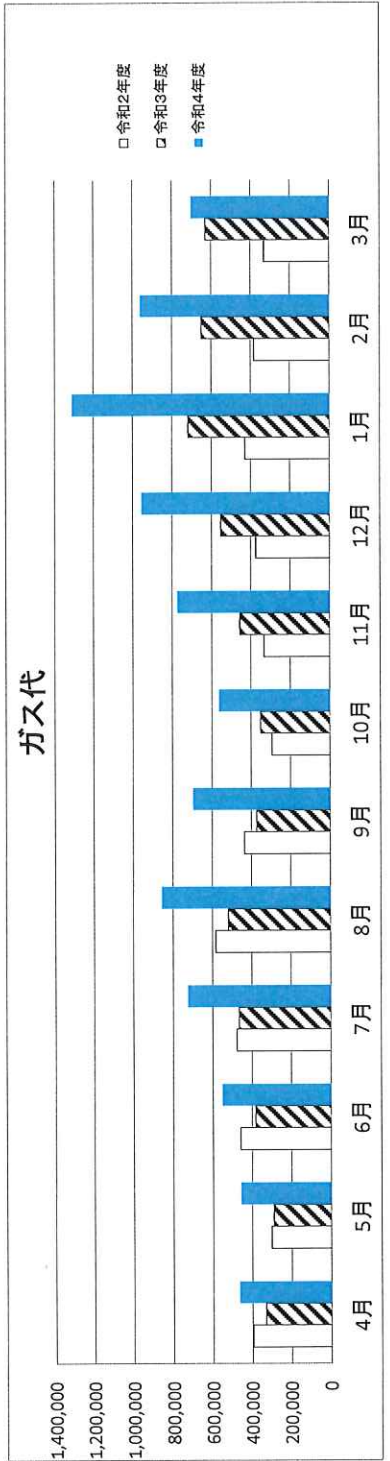
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
最大需要電力(kw)	145	145	145	145	145	145	145	145	133	132	132	132	-
基本料金	211,497.00	211,497.00	211,497.00	211,497.00	211,497.00	211,497.00	211,497.00	211,497.00	211,497.00	193,993.80	192,535.20	192,891.22	2,482,893
ピーク時間(円) @14.29 17.19	0.00	0.00	6,833.16	136,950.48	142,839.72	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	286,623.36
夏季昼間時間(円) @13.72 16.62	0.00	0.00	20,325.06	424,964.12	448,973.84	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	894,263.02
他季節時間 @12.56 15.46	325,087.06	289,356.34	412,134.74	0.00	0.00	15,770.04	389,856.00	389,656.00	521,164.90	561,288.44	474,975.96	437,216.14	3,816,306
夜間時間(円) @9.20 12.10	257,021.79	223,679.32	212,148.01	311,396.45	293,684.46	253,446.19	260,073.82	260,073.82	406,213.70	440,909.79	353,907.78	277,436.39	3,549,992
燃料費調整額	99,828.96	95,453.33	161,983.95	258,879.23	329,946.21	336,000.60	478,424.66	478,424.66	754,469.10	591,440.85	417,201.24	279,432.30	4,281,485
再エネ発電賦課金 0.35	130,458.00	114,743.00	139,362.00	181,162.00	181,549.00	148,615.00	143,402.00	143,402.00	207,569.00	224,474.00	184,768.00	154,980.00	1,954,484
業務用蓄熱調整契約 その他計算額 増加分金	-6,688.71	-1,941.43					-6,964.00	-6,964.00	-6,964.00	-6,964.00	-40,690.00	-57,511.00	-134,667
その他割引額	-125,907.85	-125,907.85	-125,907.85	-125,907.85	-125,907.85	-125,907.85	-125,907.85	-125,907.85	-125,907.85	-108,315.20	-107,500.80	-107,500.80	-1,456,487
令和4年度 電気料金	891,316	806,879	1,038,376	1,398,941	1,482,582	1,286,427	1,140,264	1,896,827	1,988,041	1,896,827	1,475,197	1,176,944	16,458,621
令和4年度 使用量(kwh)	37,814	33,259	40,395	52,511	52,623	43,077	37,165	41,566	60,165	65,065	53,556	44,922	562,118
令和4年度 1kwh当たり	¥24	¥24	¥26	¥27	¥28	¥30	¥31	¥46	¥33	¥29	¥28	¥26	29.69
令和3年度 電気料金	676,469	631,182	750,954	958,018	1,054,919	789,355	759,683	870,806	1,221,515	1,454,674	1,341,896	1,162,118	11,671,589
令和3年度 使用量(kwh)	38,378	34,673	40,264	51,662	54,718	39,093	69,062	44,632	63,432	71,550	62,378	51,468	621,310
令和3年度 1kwh当たり	¥18	¥18	¥19	¥19	¥19	¥20	¥11	¥20	¥19	¥20	¥22	¥23	¥18
令和2年度 電気料金	906,575	747,461	615,819	781,106	825,702	1,001,468	756,090	589,992	625,054	865,306	950,995	810,681	9,470,249
令和2年度 使用量(kwh)	51,104	41,385	33,981	41,488	43,657	56,149	68,735	34,584	39,023	60,638	66,951	54,809	592,504
令和2年度 1kwh当たり	17.7	18.1	18.1	18.8	18.9	17.8	11.0	16.9	16.0	14.3	14.2	14.8	17.04
令和1年度 電気料金	1,038,627	834,584	776,471	825,768	1,010,699	1,128,960	960,948	810,123	851,743	1,113,366	1,062,185	946,572	11,360,046
令和1年度 使用量(kwh)	49,520	37,014	33,264	35,996	45,717	53,973	44,370	35,961	39,662	58,150	61,674	54,488	549,789
令和1年度 1kwh当たり	21.0	22.5	23.3	22.9	22.1	20.9	21.7	22.5	21.5	19.1	17.2	17.4	22.05
前年度差額⇒	214,847	175,697	287,422	440,923	427,663								



★夜間時間・・・ピーク時間および昼間時間以外の時間。ただし、日曜・祝日(「国民の祝日」に規定する休日)および1月2日・3日、4月30日・5月1日・2日、12月30日・31日は、全日「夜間時間」。
 ☆夏季・・・毎年7月1日から9月30日までの期間。 ☆燃料費調整制度・・・原油・LNG(液化天然ガス)・石炭の燃料価格(実績)の変動に応じて、毎月自動的に電気料金を調整する制度。
 ☆他季・・・毎年10月1日から翌年の6月30日までの期間。 業務用蓄熱調整契約・・・暖房設備や厨房設備で効率的に電気を使用する業者への割引
 太陽光発電設置 平成23年11月25日 ※基本料金・・・料金単価(税込)×契約電力×(185-力率)/100

ガス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
20年度	368,705	311,741	354,735	504,593	457,376	449,758	340,504	392,054	519,702	667,216	573,902	605,417	5,545,703	462,142
21年度	431,170	366,691	427,818	455,667	422,090	334,415	249,755	310,103	393,815	469,479	469,433	446,060	4,776,496	398,041
22年度	365,761	303,009	360,165	484,080	574,439	453,388	318,329	391,048	435,829	574,049	473,590	470,011	5,203,718	433,643
22年度(m3)	4,637	3,662	4,574	6,532	7,804	5,947	3,955	4,952	5,729	8,148	6,568	6,576	66,879	5,740
23年度	317,956	335,315	321,990	431,480	484,379	428,408	325,190	394,860	542,424	728,436	645,667	585,708	5,531,183	460,932
23年度(m3)	3,877	4,071	3,759	5,361	6,036	5,012	3,354	4,066	6,135	8,692	7,527	6,696	64,566	5,382
24年度	82	82	86	80	80	85	97	95	88	84	86	87	86	86
24年度(m3)	429,119	382,298	354,562	542,099	588,869	448,989	408,206	505,277	593,582	677,528	547,931	465,923	5,944,383	495,365
25年度	4,571	3,967	3,534	5,093	6,265	4,904	4,063	5,281	6,445	7,267	6,248	5,141	62,909	5,326
25年度(m3)	461,735	394,682	436,380	665,199	664,839	564,540	476,985	606,060	694,534	877,173	724,154	695,437	7,251,718	604,310
26年度	4,873	3,797	4,132	6,656	6,560	5,357	5,353	5,900	6,925	9,341	7,509	6,977	73,364	6,114
26年度(m3)	519,763	446,296	516,034	634,569	670,026	494,371	477,407	548,628	773,778	850,116	776,403	773,141	7,480,532	623,378
27年度	4,755	3,715	4,408	5,639	6,060	4,260	4,138	4,930	7,370	8,107	7,122	6,846	67,348	5,612
27年度(m3)	560,731	441,274	513,682	615,263	578,067	365,102	299,533	376,069	482,521	567,509	562,043	499,061	5,860,855	488,405
28年度	4,685	3,629	4,654	6,322	6,408	3,968	3,713	4,184	5,046	6,817	6,807	6,067	62,300	5,192
28年度(m3)	330,378	314,298	331,725	389,998	434,784	344,954	259,811	332,354	382,904	456,034	383,607	420,394	4,361,242	363,437
29年度	3,716	3,604	4,127	5,383	6,645	5,232	3,530	4,991	5,492	7,200	5,603	6,101	61,624	5,135
29年度(m3)	308,966	305,307	336,945	465,646	459,461	358,133	341,475	410,197	482,316	515,383	451,078	388,808	4,803,715	400,310
30年度	278,276	333,381	361,050	552,572	556,469	408,706	354,866	378,412	459,827	635,949	522,494	465,009	5,307,011	442,251
30年度(m3)	3,058	3,870	4,233	7,173	7,147	4,800	3,917	4,184	5,251	7,518	5,916	4,979	61,946	5,162
令和元年度	392,743	394,469	398,166	495,055	564,976	483,758	329,656	329,656	345,474	446,014	568,603	488,772	5,237,342	436,445
1年度(m3)	4,043	4,095	4,219	5,688	6,898	5,945	3,668	3,668	3,793	5,309	7,174	6,038	60,538	5,045
令和2年度	397,079	302,154	459,459	477,523	582,801	435,667	294,487	334,393	375,371	430,372	384,214	331,002	4,804,522	400,377
2年度(m3)	4,619	3,184	5,562	5,859	7,498	5,422	3,403	4,466	5,695	7,144	5,749	4,339	62,940	5,245
令和3年度	¥331,002	¥291,501	¥383,115	¥465,437	¥518,247	¥373,123	¥332,004	¥458,069	¥552,409	¥719,631	¥649,574	¥628,491	¥5,722,603	476,884
3年度(m3)	4,339	3,358	4,810	6,168	7,230	4,925	3,970	5,347	6,463	8,378	6,660	5,889	67,137	5,595
令和4年度	¥466,524	¥458,855	¥551,945	¥727,268	¥858,439	¥698,458	¥583,711	¥775,774	¥956,520	¥1,312,113	¥961,587	¥702,581	¥9,033,775	752,815
4年度(m3)	3,998	3,788	4,713	6,185	7,261	5,514	4,017	5,354	5,984	7,986	7,124	5,397	67,312	5,809
昨年比	¥117.0	¥121.1	¥117.1	¥117.6	¥118.2	¥126.7	¥140.3	¥144.9	¥159.8	¥164.3	¥135.0	¥130.2	¥134.2	¥134.2
													¥3,311,172	



令和4年度

事業報告書

二宮デイサービスことぶきの家

令和4年度 二宮デイサービスことぶきの家事業報告書

二宮デイサービスことぶきの家も利用者様、ご家族、地域の皆様、そして、居宅介護支援事業所に温かく見守られ、無事に12年が経ちました。

ことぶきの家に来ていただく利用者様には開所当初と同様「コミュニケーション」、「個別ケア」を、ご家族には「介護負担の軽減」を、全体を通して「安定した稼働率」、「信頼関係の構築」が図れるよう努力してきました。

去年に続き、コロナの流行により、予定していた外出行事等が自粛せざる得なくなり、利用者様には日々の活動の中での楽しみが少し半減してしまっていました。

コロナウイルスも終息傾向にはありますが、いつ・誰がかかってもおかしくない状況の中で、日々不安を抱えながら営業を行ってきました。ことぶきの家内ではコロナ感染者が去年同様出ることもなく、笑顔ある楽しいひと時を送っていただけるよう努力し営業してまいりました。

しかし、年末から年始にかけ、利用者様の家庭内で、感染者が数家族出てしまい、大事には至りませんでした。が長期間ご利用いただけなかったケースがありました。現在では後遺症もなく元気になっていただいております。

まだまだコロナウイルスの終息には程遠い状況ですが、移らない・移さない為にも、根気強く皆様に周知できるよう努力していこうと思います。

次年度も、油断することなく、気を引き締めながら安心して通所いただけるよう努めていきたいと考えています。

また、高齢化と共に体調を崩され長期入院された方、また在宅生活が困難になってしまい施設入所されてしまった方などもおり稼働率が低下してしまいました。

開苑当初、介護度が平均して3以上でしたが、現在では平均介護度が2程度と元気な方が多く通っていただけるようになりました。支援方法は変化しながらも、開苑当初から築き上げてきた利用者様への想いは変わることなく「コミュニケーション」「個別ケア」に力を入れ、個々の能力に合わせケアを行ってきました。

毎日、身体状況・心理状態が変化されるご利用者様を来苑時より把握する為、職員一人一人が全ての利用者様とのコミュニケーションを図り、コミュニケーションの中からその日の状態を理解・把握・共有する事に力を入れました。

コミュニケーションを沢山図る事により、体調変化の早期発見にも繋がり、また、身体状況に合わせた個別ケアへと結びつける事ができました。

在宅生活の中で利用者様の役割が減少している中、ことぶきの家での日々の生活の中で役割を持っていただき、それに対して感謝の言葉を伝えることで意欲向上へと繋

ぐことができました。

高齢化による身体機能の低下、認知症の進行等により、細かい作業は出来なくなりましたが、中庭に実る果実でのジュース作りや干し柿作り、野菜や花を植え、育てることで、自然と体を動かし、一人一人が役割を持ち、そして達成感を得ることができたと感じています。また、自分たちで育て、実った物を口にする楽しみが笑顔に繋がることを実感できました。

ご家族に対しては、「介護負担の軽減」を図る為に、安心してご利用いただく環境を整えてきました。利用者様が楽しんでご利用していただく事で介護負担の軽減が図れたと考えます。また、送迎時や連絡帳などを利用し、ご利用者様の状態だけでなく、在宅生活での不安や悩み事など簡単ではありますがコミュニケーションを図ることで、ご家族の思いにも寄り添うことができたのではないかと感じます。

「運営推進会議」に関しましては、コロナ禍という事もあり中止させていただきました。中止にはさせていただきましたが、皆様にことぶきの家に関してのアンケートをお願いしたところ、沢山の感謝のお言葉をいただき、職員の励みになると共に、ご家族との連携をこれからも大切にし、安心・安全の施設づくりに取り組んでいかなくてはと実感いたしました。

全体としては「安定した稼働率」、「信頼関係の構築」を図れるよう努めました。

利用者様に至っては、体調を崩され入院されてしまわれた方や、ご家族のご都合により施設入所されてしまわれた方もいらっしゃいましたが、ケアマネジャーさんからの声掛けもあり、新規のご利用者様も随時ご利用していただけるようになりました。

現在は、あきる野市内のご利用者様が9割程度のご利用となり、あきる野市に根付き始めたと感じています。

次年度も更なる居宅事業所との信頼関係を構築し、連携を図りながら安定定した利用者確保に繋げていきたいと思えます。

介護事業所全体として見ても、介護職員の不足が問題視されていますが、ことぶきの家では、安定した職員確保が出来ました。

今後も、多くの利用者様、ご家族、地域の皆様、そして居宅介護支援事業所に特色、役割・意義をご理解いただき、沢山の輪を築き、この輪をさらに広げ、利用者様、ご家族の在宅生活継続に向けた支援と共に、地域から認知され、愛される事業所作りを職員一同頑張っていきたいと思えます。

これからも、社会的役割を提供し、在宅生活を継続できる居心地の良い環境を作っていきたいと考えております。

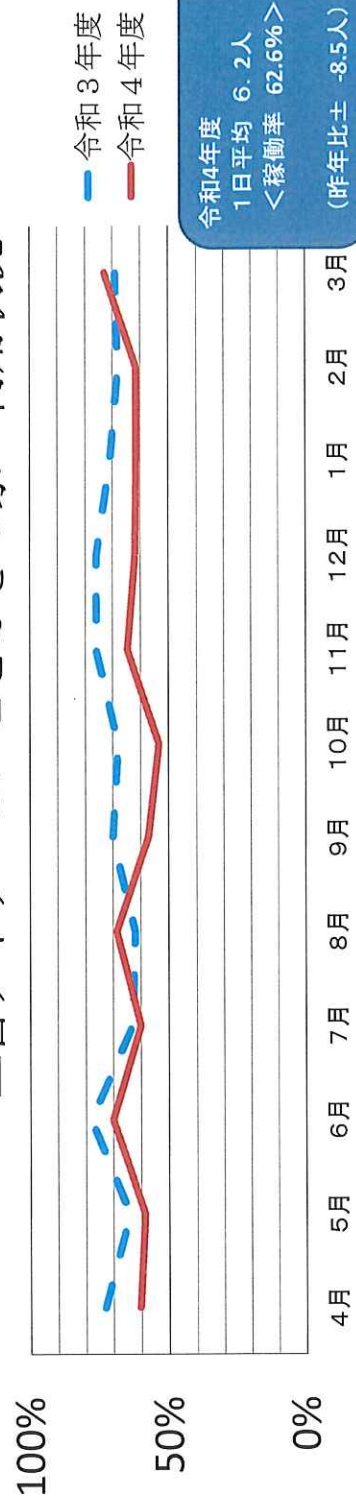
- 4月 散歩、
- 5月 畑作り（大根・なす・おくら・きゅうり）
- 6月 赤ジソジュース作り、野菜収穫（玉ねぎ）
- 7月 七夕飾り作り・赤ジソジュース作り、野菜収穫（きゅうり・なす・大根）、
- 8月 野菜収穫（きゅうり・なす・大根、等）、
- 9月 敬老の日
- 10月 中庭にてさんま昼食会
- 11月 ゆずジュース作り、たまねぎ植え、障子貼り
- 12月 ゆず湯・クリスマス週間（手作りケーキを提供）
- 1月 初詣（二宮神社）、鏡開き
- 2月 節分
- 3月 雛祭り

※ 近隣への散歩、中庭での日向ぼっこ、おやつ作り、ぬか漬け等 利用者の声を大事にしながらのレクリエーションを随時実施

二宮デイサービスことぶきの家利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/合計
平成23年度	-	27%	44%	53%	53%	58%	63%	64%	61%	63%	69%	72%	57%
平成24年度	71%	71%	71%	78%	80%	75%	74%	75%	69%	62%	58%	62%	71%
平成25年度	59%	52%	52%	57%	53%	52%	46%	46%	47%	51%	50%	57%	52%
平成26年度	60%	66%	72%	60%	57%	57%	70%	72%	65%	63%	70%	68%	65%
平成27年度	64%	58%	69%	70%	68%	72%	64%	68%	60%	63%	52%	62%	64%
平成28年度	63%	55%	58%	57%	63%	57%	42%	41%	47%	48%	54%	53%	53%
平成29年度	52%	56%	50%	53%	61%	62%	57%	62%	61%	59%	59%	57%	57%
平成30年度	58%	62%	54%	55%	57%	54%	60%	56%	56%	60%	51%	60%	57%
令和1年度	65%	65%	62%	66%	59%	60%	65%	69%	71%	67%	61%	63%	64%
令和2年度	63%	59%	72%	72%	66%	75%	72%	74%	73%	65%	69%	74%	69.5%
令和3年度	73%	64%	78%	63%	62%	70%	68%	76%	76%	71%	68%	69%	69.8%
令和4年度	60%	59%	70%	60%	69%	57%	53%	65%	62%	62%	62%	73%	62.6%

二宮デイサービスことぶきの家 利用状況



二宮デイサービスことぶきの家 利用者平均要介護度 (登録上)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男	1.7	1.9	1.9	2.4	2	1.9	1.5	1.4	1.4	1.4	1.6	1.6	1.7
女	2.1	1.6	1.6	1.6	1.8	1.6	1.6	1.6	1.7	1.7	1.4	1.8	1.7
平均要介護度	1.9	1.7	1.7	1.9	1.8	1.7	1.6	1.5	1.6	1.6	1.5	1.7	1.7

(注1)該当月末日時点で有効な要介護度より算出しています。(注2)小数点以下第2位を四捨五入しています。

二宮デイサービスことぶきの家 要介護度別利用者数 (実績上)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均人数
要介護度1	66	64	68	65	65	66	70	77	76	77	79	96	72.4
要介護度2	16	20	22	29	41	33	33	35	30	22	27	40	29.0
要介護度3	29	31	32	30	30	13	13	15	15	16	10	15	20.8
要介護度4	22	20	18	14	22	14	7	9	3	8	7	9	12.8
要介護度5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
合計人数	133	135	140	138	158	126	123	136	124	123	123	161	平均要介護度 2.5

令和5年4月

利用者登録19件

※1人あたり月に 8.4回利用されています。

(1週間に2回程度のご利用)

令和3年度平均職員人員換算・・・5.11人
 令和3年度1日平均利用者数・・・6.98人
 令和4年度平均職員人員換算・・・5.02人
 令和4年度1日平均利用者数・・・6.26人

令和4年度

事業報告書

介護老人福祉施設 久喜ことぶき苑

令和4年度久喜ことぶき苑事業報告書

1. 【全体】

施設全体の目標として「くらしの継続」を掲げ、コロナ禍において入居者様の生活にも様々な制限が課せられる中であっても、入居者様一人ひとりが安心・安全・安楽でその方らしい生活を営むことができるよう、感染防止を図りながら各部署間で話し合いをしながら日々の業務に努めてきた。

その中で、多床室では9月に職員・入居者様のコロナウイルス感染症罹患に伴うクラスターが発生したものの、幸い入院や重症化された方はおらず、その後1月に職員・入居者様のコロナウイルス感染症に罹患された際にはクラスターになることもなく、職員一丸となって拡大防止が図れたことは感染症対策の重要性について職員一人ひとりの認識が高まった成果と考える。同様にユニットに関しても2月・3月と入居者様のコロナウイルス感染症罹患が確認されたが、クラスターを発生させることなく終結するに至っている。

尚、地理的要因もあると考えるが、介護職員の人員不足について少しでも解消に繋げ、入居者様の生活の質を維持できるよう特定技能実習生を随時受け入れる中、特定技能実習生の常勤者が増えてきたことは喜ばしいことではあるが、トータルとして介護職員の増加には至っておらず、結果としてまだ全てのユニットを開設できていない状況にあり、介護職員の人員確保が今後も喫緊の課題と考える。

特に今年度介護職員採用面接（または見学）を実施した人数は30人（特定技能実習生は含まない）だったが、12名を採用（派遣・パート含む）した内訳として、4名が派遣、2名がパート、5名が紹介会社となっており、直接応募による採用が殆ど難しい状況だった。

併せて、面接にまで至らなかった電話による介護職員応募の問い合わせも一定件数あったものの、年齢的にも高齢者層の未経験者の問い合わせが多い傾向にあった。

上記を踏まえ、令和5年度も介護職員の人材確保が非常に難しいと考えられる為、いかに離職者を少なくするかが重要と考える。

（コロナ禍での取り組みについて）

・面会について

近隣及び施設内での感染状況等を踏まえた上で、全面的に中止した時期もあったが、Web面会、館内面会を予約制の下で実施してきた。

- ・コロナワクチンについて

入居者様・職員のコロナワクチン3回目・4回目の接種を苑内にて実施した。

- ・PCR 抗原検査について

職員は週 2 回出勤時の検査を実施、入居者様については発熱や風邪症状等認められた際には嘱託医に指示を仰ぎ都度検査を実施することで、罹患者の早期発見に努めた。

- ・施設全体で行う行事については各フロア内にて分散して実施すると共に、フロア毎のフロア行事も実施することで、コロナ禍においても季節を感じられたり、充実した余暇時間を過ごして頂けるよう取り組んだ。

- ・介護職員の人員不足が解消されない中、介護職員の人員不足解消の一助にすると共に、入居者様の生活の質を維持していく為に、施設として積極的に特定技能実習生を受け入れると共にOJTを通じて育成に努めることで、特定技能実習生の常勤者増加に努めた。

- ・コロナ禍であっても前年度同様に介護福祉士養成校からの実習生の受入を行った。

- ・コロナ禍において入居希望や入職希望者の施設内見学等難しい状況が継続していたことから、施設内の雰囲気や少しでも理解して頂けるよう、来苑者にはタブレットの動画で案内すると共に、グーグルマップのストリートビューを活用して施設内を見ることができるように掲載した。

- ・各種選挙における不在者投票実施施設として登録したことで、施設内で不在者投票が実施可能となった。

2. 【介護部】

1F ユニット1・2 番街

①既往歴・生活歴等、事前資料等を基に情報を収集し、入居前の生活スタイルや人物像の把握に努め、入居後の個別ケアに反映していく。

→新規入居者様の受入に関し、事前資料を参照により細やかなケアを実行えるよう、入所後の様子を踏まえながら本人様の状態や状況のアセスメントを行いながらケアを提供することで、より本人様の細やかな状態把握が行えた結果として生活リハビリとしてのお手伝い等行って頂けたりと活気のある生活に繋がられている。

②入居者様の意思を尊重した自律支援を行う為に、職員都合ではなく入居者様の生活に応じた業務が行えるよう、業務改善に努めていく。→画一的に対応するのではなく、入居者様個々の嗜好や習慣に合わせて対応することで、その方に応じた時間帯での水分提供や夜間ゆっくりと好みのお茶等を飲みながらTVを観て過ごして頂けるように配慮してきた。

又、都度当日出勤者間で小ミーティングを行い、職員間での周知を図りながら状態観察を一定期間実施し、毎月のフロアミーティングで観察した結果を踏まえ再検討を行うことで、統一したケアサービスの提供が行えるように業務改善の検討を行っている。

結果として、統一したケアサービスの提供は行えて来たと考えますが、細やかな対応に関して、職員間での差違が生じている状況。

次年度からは職員によって細やかな対応に差違が生じないように、24時間シートを導入することでより個々の状態把握に努め、細やかなケアに関しても統一した対応に繋がるよう取り組んでいく。

③コロナウイルスの影響に伴い、入居者様の外出行事・散歩等の実施が行えていない為、日々実施している個別レクリエーションとは別に、フロア内で毎月1回のおやつレク、職員が主となる音楽会等を実施し、入居者様に楽しんで頂ける機会を設けていく。

→毎月行う予定のフロア行事に関しては年間を通じて10回の実施となっており目標達成率は83%だった。

又、おやつ作りに関しては、ゼリー食やミキサー食の入居者様達にも楽しんで頂けるよう、食形態に応じてプリンやゼリー等を用意し提供してきた。

併せて、毎月実施できなかった要因としては、企画はしていたものの、職員の急な欠勤等に伴い当日の人員配置が困難になってしまったことが挙げられる。

尚、今年度のフロア行事はおやつ作りが中心であり、アクティビティ的なフロア行事が少なかったことから、次年度はおやつ作り等に偏るのではなく、バランスよく企画・実施をしていきたい。

④入居者様にとっての「暮らしの継続」に向けて取り組むにあたり、些細な変化等に対する職員の「気づき」が最も重要と考える為、毎月実施のフロアミーティングとは別に、出勤職員による小ミーティングを毎週行い、入居者様に関する職員の「気づき」をフロア全体で共有

する。

又、入居者様に関する「気づき」について関連部署と共有することで施設サービス計画書にも反映させていく。

→毎週実施する予定だった小ミーティングに関しては年間を通じて22回しか行えておらず目標達成率は42%だった。

毎週行えなかった原因として、回数よりも検討内容を重視したこともあるが、8月に関しては職員が新型コロナウイルス感染症に罹患したことで、感染防止の観点から全面的に中止したこと、他の月に関してはリーダーが主導して実施していたことで、職員個々の認識に温度差があり、その日の業務に追われて忘れてしまったり、リーダー不在日には「何を検討すれば良いのか？」が曖昧になってしまったりしたことが原因と考える。

上記を踏まえ、次年度は小ミーティングで検討した内容を再度フロアミーティングで評価していくことで、各職員に日頃からの話し合いが大切であることの認識を深められるようにすると共に、予め小ミーティングで検討する項目を専用のノートに記載しておくことでスムーズに検討が行えるようにしていく。

1Fユニット3・4番街

①「くらしの継続」を目標とし、自宅から愛用していた品や思い出の品をご持参頂き、入居者様の身の周りに配置させて頂くことで、居室の設えを自宅に出来るだけ近づける。

又、新規入居者様については入居後1週間程度を目安にフロア内でミニカンファレンスを実施し、生活環境の見直しを検討する。

併せて、毎月のフロアミーティングや随時のミニカンファレンスを行い、他職種にも参加を促すことで多角的な視点からフロア入居者様全員の生活環境の見直しに努める。

→新規の入居者様等に対し、入居後の本人様やご家族へのヒアリングやアセスメント不足から、自宅からの愛用品や思い出の品の持ち込みが4件中1件に留まってしまった。

又、新規入居後1週間以内にフロア職員間でミニカンファレンスを実施することを目標に掲げていたが、人員配置の状況等、職員都合で未実施になってしまった。

尚、フロアミーティングについては定期開催を行ってきたものの、事前に検討したい議案の発信や他職種への促し等の周知不足等もあり、参加が得られなかった。

②入居者様の生活リズムを基準とした「寄り添う介護」を提供する為に、自分達が今何をすべきなのかを考え、入居者様にゆったりと接し「時間」「スピード」に追われない介護を行い、入居者様が快適に過ごせる環境の提供に努めることで、くらしの継続に反映させていく。
→日々の業務に追われ、入居者様とゆったりと会話できる機会が少なく「寄り添う介護」が行えずに職員都合の介護になってしまっていたと考える。

又、会話の際にも立ち止まって入居者様と視線を合わせたり、傾聴する姿勢がフロア全体できていなかった。

上記を踏まえ、次年度ではフロア全体で傾聴する姿勢を持ち、職員同士で確認・指摘し合えるフロアを目指すと共に、フロアミーティングで業務の見直し・改善を検討し、スピードに追われるのではなく入居者様の生活リズムに応じたケアが行えるように努める。

③毎月1回、フロア主催のフロア行事を行い、入居者様と職員が同じ時間を共有し、「楽しく」「明るく」「笑顔」の絶えない時間の提供に努める。

→2月はコロナウイルス感染者が生じた為に中止したが、それ以外の月については8月よりフロア行事を実施した。フロア行事の写真からも入居者様達が「笑顔」で「明るく」「楽しく」過ごされている様子が見て取れ、コロナ禍で面会制限がある中でもご家族に様子が伝えられるよう、毎月写真入りのお手紙をご家族に送らせて頂いたり、広報誌に掲載することも含め、入居者様と職員が同じ時間を共有できたと考える。

次年度もフロア行事の年間予定を立て、継続して毎月フロア行事を実施していく予定。

2F ユニット1・2 番街

「個々のライフスタイル(個別ケア)の構築」

様々な視点から入居者様ひとり一人をアセスメントして、個々のライフスタイル(個別ケア)として構築していく事で、苑の目標「くらしの継続」を具現化していく。

① 入居者様に関するケア内容や方法の共通認識を図る為、毎月1回はフロアミーティングを実施して、ケア内容の検討・改善を図る。

又、前年度のユニットケアに対する知識不足の反省から、日々の業務で個別ケアに繋がる取り組みを探求し、ユニットケアの理解を深

める。

→入居者様に対するケアの処遇改善は、日々の中でも適宜検討を実施したほか、毎月のフロアミーティングを通じても実施してきた。フロアミーティングは、昨年度、計4回の実施で留まったが、今年度は、コロナ対応等で書面での開催とした月もあった中で、計12回、毎月実施ができていた。

ユニットケアの理解については、当初、年度初めの内部研修でユニットケアの勉強会を開催した上でフロア内に落とし込んでいく予定だったが、苑内感染対策によって中止となった為、基本的な考え方の浸透や定着には至っていないが、食器やコップを個人の物に変更させて頂いたり、排泄ケアの時間についてフロアミーティング等を通じて検討するなどして、一部だが個別化したケアが行えていた。

又、起床や就寝時間に関しても、その時の状態や希望等に配慮した中で、一部だが個別化したケアが行えたと考える。

- ② ブレーデンスケール等を用いて月1回の評価を行い、潜在的な褥瘡リスク者や皮膚トラブル者について、ケア内容をフロアミーティングで検討し、入居者様に清潔且つ快適な生活を送って頂けるよう努めていく。

→ブレーデンスケールを用いての褥瘡評価は、毎月実施してきた。14点以下を褥瘡高リスク者として、年間を通じて潜在的に褥瘡リスクがある入居者様を5人(亡くなった方も含めて)に留めることが出来たが、褥瘡として判断された事案が1件あったほか、褥瘡の手前の状態にまで悪化した皮膚トラブルも1件あった。

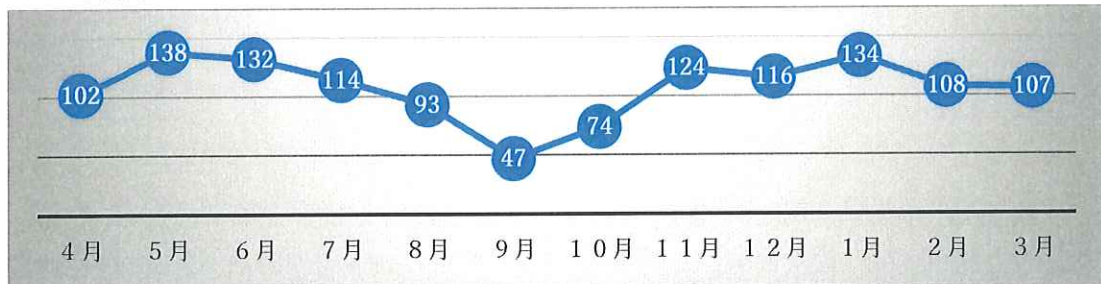
又、陰部洗浄を丁寧に対応してきたことで、尿路感染を発症した入居者様は0件であった。褥瘡に至ってしまった原因としては、体位交換やポジショニングの不一致と言ったことも考えられるが、状態に合わせてマットレスの種類を変更するなどの対応は、フロアミーティングを通じて検討し、適宜行ってきた。

主な要因としては、超高齢による皮膚組織の損傷や内部組織の衰退に伴う栄養状態の悪化等と考えられる。

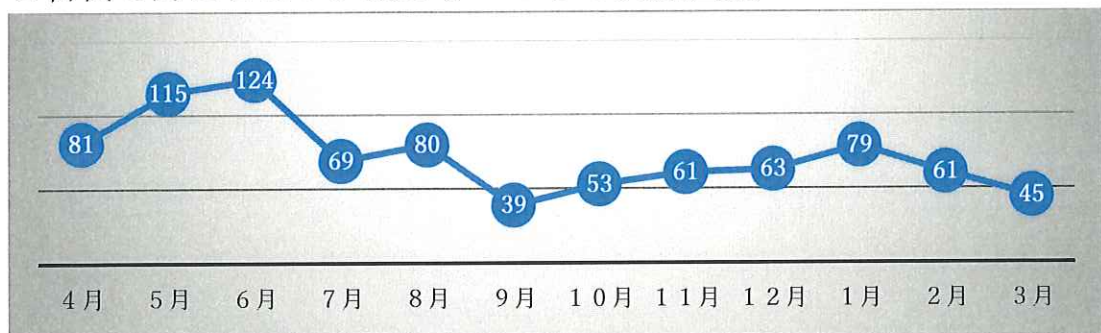
次年度も継続して、ブレーデンスケール等を用いての褥瘡予防に努めていくと共に、尿路感染等によるADLの低下を引き起こすことの無く、清潔且つ快適な生活を送って頂けるように取り組んでいく。

- ③ 日々の生活の中で、余暇時間の充実、QOL 向上、身体を動かす機会・楽しむ時間・交流の場を提供していく為、口腔体操やリハビリ体操、レクリエーションの実施や入居者様の趣味や嗜好に応じた生活リハの実施、散歩を含めた外出の機会を毎日の生活の中で取り入れていく。また、最低、月1回のユニット行事を実施していく。

→1番街の月ごとのレク及びリハビリの実施回数



2番街の月ごとのレク及びリハビリの実施回数



日々の生活の中で、個々の入居者様に対して、活動への参加意思を確認しながら、個別的レクリエーション、生活リハビリ、毎月のフロア行事を含めた行事やクラブ活動等への参加を促し、生活の活性化を図ってきた。

フロア行事は、職員の離職やコロナウイルス感染症への罹患、その蔓延防止等の観点から実施の自粛もあり、6回に留まった。

入居者様個々の行事参加やレクリエーション等の実施状況は、毎月のフロアミーティング議事録に数字化して反映している。それぞれについて、1番街での総計は、1289回/年、2番街での総計は、870回/年であった。8月～10月にかけて回数の減少が見られるのは、コロナウイルス感染症対応と職員の離職が重なったことに起因する。

又、2番街では下半期で入居者様の居室移動や入院や訃報に伴う在籍者数の低迷が回数の伸び悩みに繋がったと考えられる。

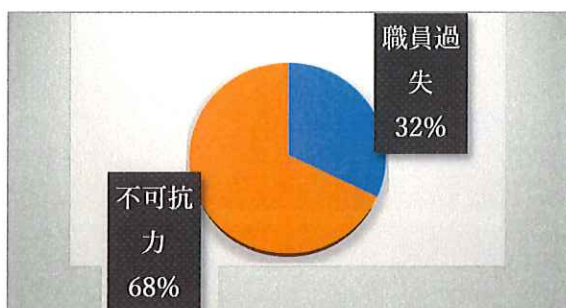
フロア内の稼働率としては、1番街は4月90%から始まり、移動等もあった中で3月中旬で100%(満床)をキープしているが、2

番街では4月90%から始まり、移動や入院、訃報もあり3月中旬で60%まで低下している。フロア全体としては、4月90%から3月中旬で80%台へ低下している。

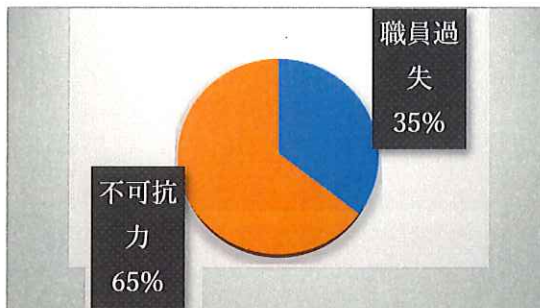
次年度は、フロア行事を月毎に、あらかじめ職員へ割り振り、持ち回りの担当制にすることで、実施回数の向上を目指す。また、今年度で得られた個々のアクティビティを24時間シートに落とし込み、個別ケアへ繋げていく。

- ④ 前年度、ヒューマンエラーによるヒヤリハットが大半を占めていた為、次年度は、月に上がったヒヤリハット件数の1/3以内に抑える中で、職員の「視野の向上」や「細かい気付き」を養い、ケアの質の向上に繋げていくと共に、人為的ミスによる事故を事前に回避していく事で、安心・安全を保障した生活の提供を目指す。

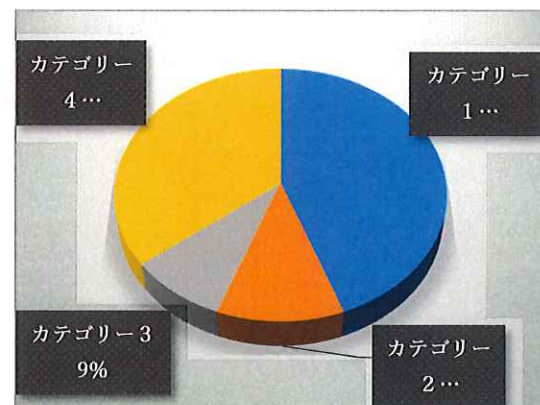
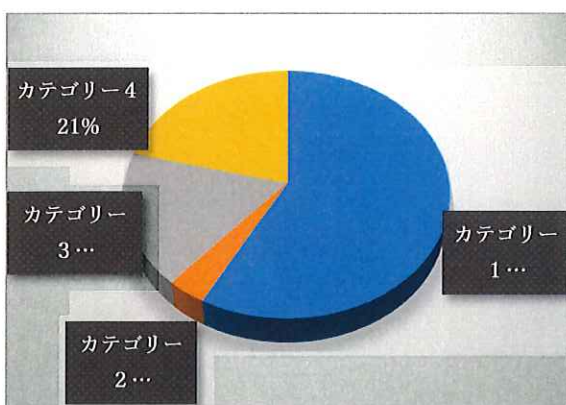
→1番街ヒヤリハット要因割合 2番街ヒヤリハット要因割合



1番街ヒヤリハットリスク分類割合

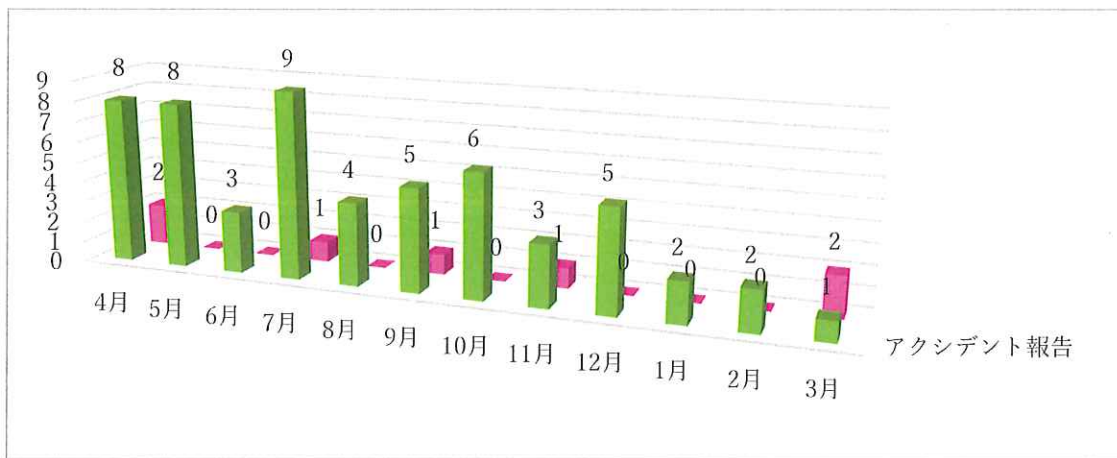


2番街ヒヤリハットリスク分類割合



- 注) カテゴリー1…転倒や滑落、内出血などの外傷性に関する事故
 カテゴリー2…異食や誤嚥に関する事故
 カテゴリー3…薬や骨折、危険行為などの行政報告に関する事故
 カテゴリー4…上記以外のその他に関する事故

アクシデント報告及び行政報告の月別比較



ヒヤリハットの年間総数は、135件であった。内訳は、1番街が56件、2番街が79件であった。年間を通じて、ヒューマンエラーによるものは3～4割程度に抑えられている。

アクシデント報告の年間総数は、55件であった。内訳は、1番街が22件、2番街が34件であった。

行政報告の年間総数は7件であった。内訳は、1番が6件、2番街が1件であった。

両ユニットに於いて、中程度の認知症や歩行及び手引きの入居者様が比較的に多く、年間を通じて転倒事故だけで16件(行政報告を除く事故全体の凡そ29%)発生しており、転倒のリスクが高い入居者様が多いフロアであると言える。

行政報告に関しては、全て薬に関するものであった。内訳は、落薬1件、誤薬1件となっている。このことから、飲み込み確認の不十分さが際立っていると言える。

途中、入居者様の居室移動や訃報もあった中で、2番街の入居者様の在籍割合の方が年間を通して低いにも関わらず、ヒヤリハットは1番街よりも多く挙がっていることから、2番街の方が潜在的な事故の発生リスクが高いと言える。

これは、アクシデント報告の件数にも比例している。しかし、行政報告(主に薬に関する事故)では、1番街の方が極端に多くなっている。これは、入居者様の在籍数や介護度、活動量、業務量にも影響しているのではないかと考えられる。

先に述べた通り、1番街の在籍者数の方が年間を通して多い。また、ヒヤリハットのリスク分類でも、行政報告に関する事故の発生リスク(カテゴリー3)が18%となっており、2番街の2倍の数値(9%)

となっている。

要介護度では、年間平均で1番街が3.8に対して、2番街は4.0となっている。

独歩で歩かれる入居者様は、年間平均で1番街では5名、2番街では2名となっている。これらのことから、業務量や活動量も1番街の方が高いと言える。つまり、職員の負担が1番街の方が大きいのではないかと考えられる。

薬の事故に関しては、全てヒューマンエラーと言われる中で、業務に追われ職員の負担が大きい1番街の方が、ヒューマンエラーを起こしやすい為に、薬の事故が2番街より多くなっているのではないかと考えられる。

事故の月別の発生件数では、7月(9件)が最も多く、次いで4月、5月(8件)、10月(6件)、9月、12月(5件)となっている。このことから、季節の変わり目では、事故の発生率が高くなると言える。

これらを踏まえ、次年度は、飲み込み確認の徹底、薬に関する事故を0件にすることを目標に掲げると共に、1番街ではヒューマンエラーを起こしやすい状況にあること、季節の変わり目では入居者様の心身にも変化があり、事故が発生しやすくなることに留意してケアに当たっていく。

- ⑤ 個々の入居者様に対して、出来る部分の自立支援を行い、他部署との検討も含め、事故のないよう安全に配慮した上での食事や入浴、排泄形態等の維持に努めることで、認知症の進行に伴う残存機能の低下を最小限度に抑え、QOLの維持に努めて行く。

→日常生活の中で、個々の出来る(介助の必要ない)部分を見極め、必要以上の介助を行わないことで、なるべく残存機能を使って頂くケアに努めてきた。

又、認知症の進行等で介助が必要な方に対しても、まずは、残された機能を生かして頂くようケアして来た結果、声掛けなどの介助量が増えた部分もあるが、年間を通して、大きくADLが低下した入居者様はいなかった。

フロア全体の平均介護度については、4月では4.1であったのに対して、3月上旬時点では3.9となっている。食事面では、誤嚥リスク等から食事形態の下方変更、全介助の割合は18%→22%と増加、入浴面では本人の体格からゆっくり入浴して頂けるよう配慮した上での下方変更(個浴→チェアー浴)もあったが、状態を勘案した中で上

方変更(機械浴→チェアー浴)した入居者様も居た中で、全介助の割合は47%→44%と減少、排泄面では、2名の入居者様について、新規入居時は、オムツ対応だったのを職員の努力の介もあって、トイレ誘導へ切り替えることに成功した事例もあることから、全介助の割合も42%→39%と減少している。
次年度は、バーセルインデックス評価を用いて、QOLの維持を数値化して、その維持と向上に努めていく。

- ⑥ ①～⑤を様々な視点から捉え、個々のライフスタイルとしていく事で、苑の目標「くらしの継続」を具現化していく。
→結論として、今年度で立案した目標については、部分的には評価できる面もあったが、ほとんど完遂することができなかつたといえる。次年度は、内部研修やフロアミーティングを通じてフロア内の教育に努めると共に、離職率を下げることで安定したフロア運営にも努めることで、新たに立案した目標について完遂を目指す。

2F 多床室

- ①多床室としての「くらしの継続」を目標にし、本人様・ご家族から改めて生活状況・意向の把握の為の聞き取りを行うと共に、毎月のフロアミーティング時に聞き取りした結果を踏まえ、入居者様個々の状態に応じたケアの方針を決めて対応していく。
→ご家族からの情報収集を行うことが出来ず、入居者様の生活歴、趣味・嗜好を改めて知ることができなかつた。
フロアミーティングにおいても、8・9・11・1・2月はコロナウイルス感染症対策の為に実施できず、ケアの方針をフロアミーティングで決められなかつたが、日々のケアの中で入居者様のケアの方針を決めていく中で、排泄パターンの把握、排泄物品の選定に繋がり、入居者様の個々のケアに繋げることはできたと考える。
- ②居室担当者の出勤時には、都度フロア内で担当入居者様のケアの方法等について検討を行い、アセスメントした情報をフロア職員間で共有し、必要に応じて対応方法の変更を行い、個別ケアの提供に繋げていく。
→居室担当・日勤リーダー、フロアリーダーを中心としてアセスメントから得られた情報、他部署からの情報を職員間で申し送り、PC・申し送りノートを活用して情報の共有を図り、対応方法を決定して

いくことができたことで、前年度のアクシデント件数91件（転倒：29件、転落：4件、滑落：11件、外傷：32件、誤薬：1件、その他：14件）に対して、今年度は43件（転倒：15件、滑落：4件、外傷：10件、熱傷：1件、他者トラブル：3件、怠薬：4件、その他6件）にまで減少することができた。

しかし、同じ入居者様や同じ内容のアクシデントが発生していることから、次年度にもヒヤリハットを活用し、アクシデントに繋がらないよう取り組んでいく。

- ③入居者様一人ひとりにとってのその方らしい生活が営めるよう、年2回（9月・2月）満足度アンケートを実施し、入居者様の満足度について把握すると共に、結果としてどのような取り組みであれば入居者様個々にとっての満足が得られるのかをフロアミーティングで検討し取り組みに反映していくことで、その方らしい「くらしの継続」に繋げていく。

→9月・2月とコロナウイルス感染症対策に伴い、入居者様の居室隔離対応中だったことから、アンケートの実施に至らなかった。反省点として、アンケートの事前準備が足りなかったことで時期をずらして実施する等の認識が不足していたことが原因と考える。

- ④アクシデントを未然に防ぐ気付きに繋げる為、職員個々が1日1枚のヒヤリハット記載に努め、フロアミーティング等で対応策を検討することで、安心・安全・安楽な「くらしの継続」を目指していく。

→口頭による申し送り、申し送りノートの活用、フロアミーティングにおいて、ヒヤリハットの記載について周知を図ってきたが、職員一人ひとりの「気付き」について、一人1日1枚までには至らず、前年度421件に対し、今年度238件と大幅減になってしまった。

但し、ヒヤリハットの活用方法について、事故対策委員会担当職員を中心に検討することが行えたこともあり、前年度比-48件までに取り組むことができた。

次年度はヒヤリハットに対してのカンファレンスを継続して行うことで、同じ内容のヒヤリハットが発生しないよう取り組んでいく。

- ⑤高齢者に多い基礎疾患等への理解を深め予防策に取り組むことで、健康状態の変化に対し早期発見・対応を心掛け、重症化を防いでいく。
→勉強会の資料、施設内の回覧物、フロア職員が作成した資料をフロ

ア職員全員が閲覧し、病気への理解、知識を深める取り組みを行い、水分補給、陰部洗浄の重要性、車椅子でのポジショニング、感染症等への理解を深める一助とすることができたと考える。

- ⑥尿路感染等の感染症を未然に防ぐ為、フロア職員全員が入居者様一人ひとりの1日の水分摂取量について把握し、提供方法や種類・時間等工夫しながら必要とされる水分量の確保に取り組んでいく。
又、排泄介助時に陰部洗浄の目的・方法を理解し適切な方法で行えるよう、スキルを身につける。
→生活状況シートを活用し、水分量の把握、陰部洗浄の有無を確認し、入居者様の水分トータル摂取量が1000ml/日を下回ることがないよう、日勤帯から夜勤帯へも水分摂取量の申し送りを徹底することで、フロア全体で必要水分量の水分補給を行うことができた。
又、新入職員に対しては陰部洗浄方法の資料を配布すると共に、実戦での指導を行うことで技術の習得に努めたことで、年度を通じて尿路感染の症状が認められた入居者様は1名に留めることができた為、次年度も継続してリーダーの指導と修正を行っていく。

- ⑦フロア職員全員が施設内部研修に参加し自己啓発に努めることで、自身及びフロア全体のスキルアップに繋げていく。
→毎回の内部研修に職員全員が参加することは出来なかったが、勉強会係を中心に研修内容の資料をフロア内で閲覧できるようにする等、フロア職員全員に周知が図れるように努め、日々のケアで実践することで、入居者様への適切なケアに繋がったと考える。

3.【看護部】

「その人らしい、穏やかな生活が継続できる」

- ①内服薬の管理、排便コントロールの維持に努める。
→内服薬管理において、セットミスや翌日にミスが発覚することがあった。スキップ可能薬であった為、大事には至らなかったが、内服薬のセット時には今後も集中して行うようにしていく。
又、薬剤師から医師に直接連絡して頂けることになったことで、薬の相乗効果や半減期など、看護師では判らないことを事前に防ぐことができるようになり、薬局薬剤師との情報共有が図れるようになった。
排便コントロールについて、個々の排泄状況や飲水状況を把握し、

内服液のコントロールが図れるようになった為、今後も継続していく。

② 入居者様一人ひとりの体調の把握に努める。

→ラウンド時や往診時、介護職員からの報告で、どんな状態であるのか？急を要するものなのか？等、互いに協力し合うことでその場に応じた対応が概ねできていると考える。

しかし、判断ができないことや部署内職員間での差もあり、少しずつ向上できるようにしていくことが今後の課題と考える。

上記①・②の課題を一步ずつクリアしていくことで、入居者様にとって穏やかに安心した生活が継続できると考える。

その為に、特養の医療従事者として、臆することなくお互いに「報・連・相」並びに「確・連・報（確認・連絡・相談と報告）」は必要と考える。

看取り開始や急変時の対応を、ご家族・他職種・医師との連携もスムーズに図ることを次年度の課題とする。

4. 【栄養部】

① 見た目や食器等で家庭らしい雰囲気を楽しんで頂く。

ユニットでの調理・炊飯を継続して取り組んでいく。

→多床室の食事は厨房で盛り付ける反面、ユニットでの盛り付けには職員個々での差が生じることもあり、改善の余地があると考えます。

又、各フロア内のキッチンで調理・炊飯を行うことに関しては、ご飯の炊ける香りやみそ汁の香り等、食思を刺激する効果や認知症の方にとっても食事の時間の認識に繋がっている側面もあると考えられることから、このまま継続して実施していきたい。

② 美味しく安全な食事提供に努める。

衛生管理に努めて盛り付けや食器を工夫し、目でも楽しめる食事の提供を行う。

→その日毎の献立に応じて食器を変えたり、盛り付けも彩を考えながら盛り付けを行ってきた。食事全体の彩りもだが、ちらし寿司のように米飯の上に具材を盛り付ける時には、より華やかに見えるように意識してきたことで、入居者様達の好評を得ることができたと考えます。

③ イベント食の提供

季節ごとのイベントでは 3~4 カ月に 1 回程度の頻度で手作りのお菓子等の提供を行う。

→各フロアや他部署とも連携しながら季節毎の行事に合わせておやつバイキングを企画したりと入居者様の楽しみの機会の確保に繋がったと考える。

④ 一人ひとりに寄り添った食支援を行う。

個人の状態や意向に合わせた支援の実施を行う。

→食事の形態については各部署に確認し、必要に応じてミールラウンドを行うことで、個人に合った状態での提供ができていると考える。

5. 【生活相談部】

①外部との連携を深めることで、紹介～入居～受診入院～退去の安定した連鎖の構築を図り、稼働率の維持・向上を目指す。

→生活相談員が 1 人体制の時期が数か月あり、新規入居者様受入が中々進まないことがあったが、2 人体制に戻ってからは新規入居者様受入に向けて、事前面接や判定会議等もスムーズに行えるようになったと考える。

その一方で、今年度の新居入居者様受入 18 名に対し、退所が 19 名と新規入居を上回っている状況にあり、稼働率の向上に繋がらなかったと考える。

又、コロナウイルス感染症のクラスター等で、受入を一時中止せざるをおえなかったことも稼働率の向上に至らなかった一因と考えられることから、今後も外部との連携を深め更なる稼働率向上を図ることが必要と考える。

尚、受診・入院に関しては、医療機関との認識のずれ等によってトラブルになったこともあったが、退所等の対応についてはご家族とのトラブルに至ることもなくスムーズに行えたと考える。

②事実認識の強化・正確な情報収集と提供・即日記録の保存に努めることで、施設として起こり得る誤認・誤報トラブルの遡減を図る。

→事実認識・情報収集と提供に関しては、まだまだ改善すべき点が多くあったが、即日記録については生活相談部用の申し送りツールを活用することで、生活相談員同士の連携は図れていたと考える。

又、他部署に対しては口頭による報・連・相だけではなく「ほのぼの」を有効活用することで、必要事項の周知が図れたと考える。

- ③入居者様の状況把握において、直接フロアに行く機会を前年度との比較において増やすことで、入居者様の生活の様子・体調・状況確認の把握に努める。

→前年度よりも直接フロアへラウンドする回数が増えたことで、入居者様の様子・体調・状況等を早期に把握すると共に、自分達の手でその場で確認することができた為、今後も継続して行っていく。

6. 【リハビリ部】

- ①現在行えている能力を可視化出来るように数値化し、ADLの維持・向上を目指す。

→機能訓練を実施した内容について記録に残し、カンファレンス時に内容を反映してきたが、数値化するまでには至らなかった。

- ②入居者様が前向きに行えるような機能訓練の内容取り入れていく。

→ご家族からの意向を確認するだけでなく、日々のフロア内での関りの中で、入居者様からの意向を確認し、計画書作成に反映してきた。

- ③コロナ禍で感染対策を踏まえた機能訓練を考察し、隔離等でもADLが低下しないような機能訓練の提供に努めていく。

→クラスター発生等により、一時該当フロアの機能訓練を中止した期間があったものの、フロア内で行えることを検討する中でフロア職員で行えるような生活リハビリ等も取り入れながら対応する事ができたと考える。

7. 【事務部】

施設運営での後方支援の役割を担い、入居者様およびご家族が安心、安全、快適に過ごして頂けるようにその使命を全うする。

- ①「冗費」を徹底的に排除することで、適性なコスト管理を行う。

→令和4年度の事務費支出については、対前年比101.5%と若干上回ってしまった。「無理」「無駄」を排除する余地はまだ十分にある為、職員個々に担当している業務において、継続してコスト削減に取り組んでいく。

- ② 事務所は施設の「顔」としての意識を持ち、来訪者には常に「元気で、明るく」、電話対応等については「親切・丁寧」を心がける。
→来訪者に対しては常に「元気で、明るく」、電話対応等については「親切・丁寧」に取り組んできた。事務所は施設の「顔」としての意識を常に忘れずにソフトな対応を心掛けていく。
- ③ 現場の職員が働きやすい環境を常に整える。
→現場の職員が、安心・安全に業務遂行できるように事務として後方支援を行ってきた。
入居のお客様の処遇に支障をきたすような状況については、迅速に対応する事で入居のお客様には安心・安全・快適に過ごしていただけるよう、又、現場の職員には安心・安全に業務遂行できるようにサポートを行ってきた。
これからも現場の職員とは積極的にコミュニケーションを図りながら、安心・安全に働くことのできる環境を整えていく。

8. (介護支援専門員)

コロナ禍が2年以上にも及び、ご家族と自由に面会し触れ合うことが出来ない状態が継続している。入居者様が不自由で不安な気持ちにならないよう、今まで以上に関わらせて頂き、各部門との連携を密に取りながらサポートさせて頂く。

- ① 各専門職と連携し、日々の健康状態・生活状況を基にサービス計画書を作成する。
→各専門職と連携しての計画書作成については、昨年に引き続き、各フロアでコロナウイルス感染症発生の影響で、サービス担当者会議が個別での聞き取りとなるケースが全体の1割程度あり、12月介護支援専門員、2月機能訓練指導員、3月管理栄養士不在となり、看護職員の会議出席率も悪く十分な連携やカンファレンスができていない。11月の埼玉県実地指導時、特に指摘は受けていないが、今後、計画書の保存方法を検討する必要があると考える。
- ② 入居者様と密な関係を持ち、気軽に相談して頂ける関係を構築する。
→入居者様との関係は入居期間が長い方については今までの関係性があるが、新規入居者様についてはフロアへの立ち入りが行えない時期や居室対応等があったものの、できる限りフロア内でのお声がけを心掛けたが、密な関係が作れたとは言えない。

- ③ ご家族とも多く連携し、在宅生活時の暮らしが継続できるよう、アセスメントをしっかりと行っていく。
→意向の確認やケアプランのご説明、来接辞にお声かけする等、ご家族との関係もできるだけ作り、「くらしの継続」に繋がるよう心掛けて業務を行ったが、新規入居者様のご家族との関係は薄く、アセスメントに繋ぐことができていない。
生活に繋がる丁寧なアセスメントが必要と理解している。
- ④介護保険関連の申請や相談支援を行う。
→介護保険関連の申請等のご家族にご連絡・確認しながら行うことにより、ご相談がある時は対応できていた。
- ⑤部署の垣根を越え、行えることは積極的に関わっていく。
→簡単に「部署の垣根」を超えることは難しい。それぞれの立場があり、その立場をお互いが理解する必要があるが、本音で話し合える場が少ないと感じる。

久喜ことぶき苑 職員の状況（令和5年3月末現在）

常勤		非常勤		資格取得者	
職種	人数	職種	人数	資格名	人数
施設長	1名	介護職員	15名	国家資格	
副施設長（介護長兼任）	1名	看護職員	1名	社会福祉士	1名
事務長	1名	給食	6名	介護福祉士	16名
事務員	3名	洗濯・掃除等	2名	正看護師	2名
生活相談員	2名	運転手兼営繕	1名	管理栄養士	1名
副介護長	1名	デイ職員	0名		
介護職員（エントリダー）	4名	宿直員	2名		
他介護職員	22名			都道府県	
看護職員	3名			介護支援専門員	1名
管理栄養士	1名			准看護師	2名
機能訓練指導員	1名			機能訓練指導員（作業療法士）	1名
介護支援専門員	1名				
給食	1名			その他民間	
				上級救命	
				防火管理者	2名
				ヘルパー1、2級、初任者	9名
デイ職員	0名			実務者研修	5名
合計	41名	合計	27名		
常勤平均年齢	40.4	非常勤平均年齢	46.8	全体平均年齢	43.6
介護職員常勤換算	35.4名	介護福祉士常勤換算	11.9名	看護職員常勤換算	4名

※ 兼任あり

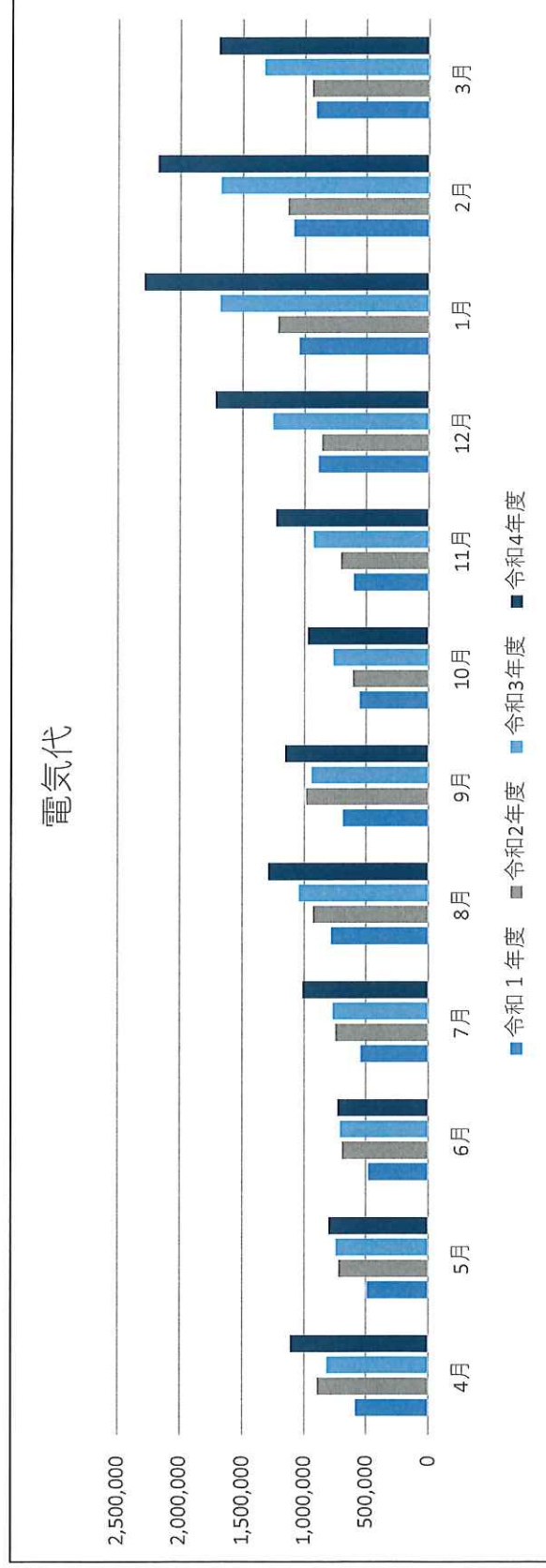
○令和4年度久喜
行事・活動報告

月	全体行事 内容	フロア行事 件数
4月	開苑祭	4月誕生会 (1階1・2番街)
5月	菖蒲湯	5月誕生会 (1階1・2番街)
6月	入居者様健康診断、職員健康診断 父の日ケーキバイキング (各フロア毎)	百寿お祝い (2階1・2番街)
7月	七夕 (飾りつけ)	7月誕生会 (1階1・2番街)
8月		
9月	敬老会 (各フロア毎)	
10月	ハロウィン (各フロア毎)	ハロウィン飾りづくり (1階1・2番街)、10月誕生会 (1階1・2番街) 秋の味覚 (スイートパンプキン作り) を感じよう! (1階3・4番街)
11月	職員健康診断・腰痛健診 冬のおやつバイキング (各フロア毎)	ホットケーキ作り (1階1・2番街)、11月誕生会 (1階1・2番街) お楽しみ会 (1階3・4番街)、和菓子バイキング (2階1番街)、異文化交流 (ベトナムのお菓子作り) (2階2番街)
12月	クリスマス会 (各フロア毎) 柚湯	
1月	元旦祭、書初め (各フロア毎)、鏡開き (各フロア毎)	豆腐田楽作り (1階1・2番街)、春を呼ぶ飾り・鬼のお面制作 (1階3・4番街)
2月	節分祭 (各フロア毎)、バレンタイン (各フロア毎)	ロールケーキ作り (1階1・2番街)、風船バレー (1階3・4番街)
3月	雛祭り、観桜ドライブ	おやつ (チョコトリュフ) 作り (1階1・2番街)、 カラーフルーツポンチ作り (1階3・4番街)

○令和4年度久喜光熱水費

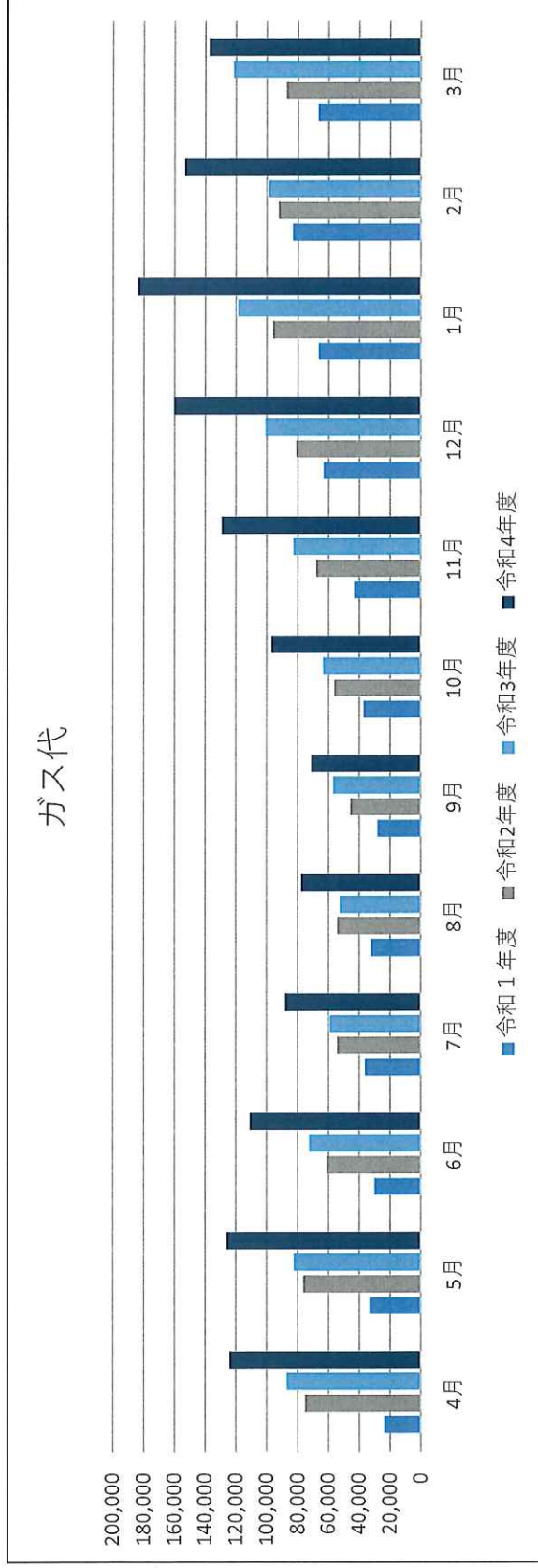
【電気代】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和1年度	585,203	491,407	478,801	544,581	783,986	687,941	554,394	601,393	886,359	1,045,934	1,090,393	907,144	8,657,536
令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	894,225	721,896	693,358	749,722	928,995	987,981	609,450	705,967	861,104	1,220,135	1,138,078	941,617	10,452,528
令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	817,856	744,758	708,268	770,702	1,044,576	942,017	769,112	928,258	1,259,513	1,678,961	1,671,495	1,328,500	12,664,016
令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	1,111,261	802,307	727,979	1,014,753	1,293,472	1,154,828	971,132	1,233,769	1,716,821	2,289,540	2,180,265	1,690,236	16,186,363



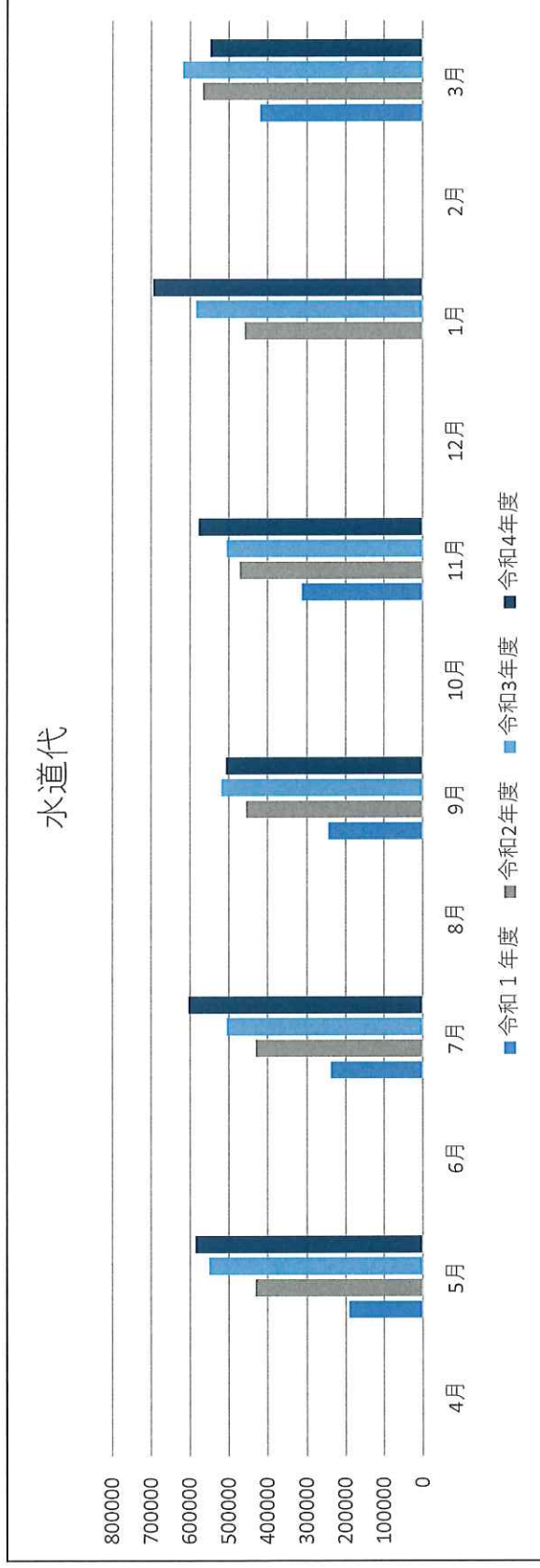
【ガス代】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和1年度	23,706	33,459	30,194	36,289	32,414	28,145	37,188	43,197	63,124	66,391	83,235	66,654	543,996
令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	75,387	76,495	61,152	54,420	54,282	45,594	56,312	68,094	81,214	96,269	92,612	87,724	849,555
令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	87,169	82,617	72,799	58,930	52,734	56,994	63,506	82,866	100,959	118,951	98,828	121,901	998,254
令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	124,502	126,180	111,144	88,298	77,855	71,217	97,023	129,380	160,203	183,763	153,239	137,414	1,460,218



【水道代】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和1年度		191,386		238,766		244,522		313,093				419,078	1,406,845
令和2年度		431,706		431,255		455,224		471,724		459,712		566,434	2,816,055
令和3年度		550,726		505,912		518,848		505,912		583,528		617,716	3,282,642
令和4年度		585,376		603,856		507,430		577,060		694,870		547,030	3,515,622



介護老人福祉施設久喜ことぶき苑（ユニット） 要介護度別人数（各月末日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
要介護2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3
要介護3	12	12	12	13	13	13	13	12	12	12	12	12
要介護4	17	17	16	14	14	13	12	13	13	12	12	12
要介護5	12	12	12	14	14	13	13	13	13	14	13	13

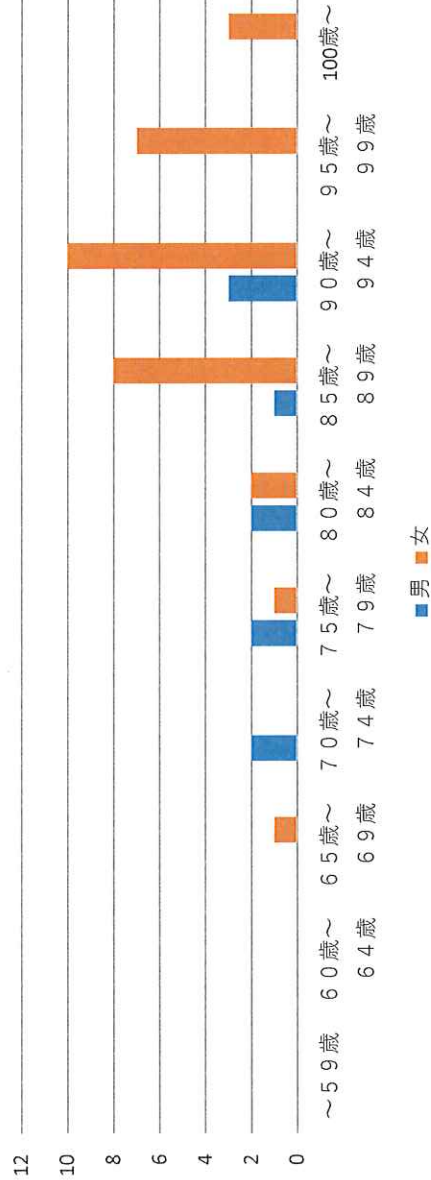
認知症度別人数（各月末日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自立	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
I	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
II a	7	7	7	7	6	6	6	6	5	5	5	5
II b	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11	10	10
III a	13	13	13	13	13	12	11	12	12	12	11	11
III b	6	6	7	7	6	6	6	6	6	7	7	7
IV	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
M	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	2	2

介護老人福祉施設久喜ことぶき苑（ユニット）利用者状況（令和5年3月末現在）

	~59歳	60歳~ 64歳	65歳~ 69歳	70歳~ 74歳	75歳~ 79歳	80歳~ 84歳	85歳~ 89歳	90歳~ 94歳	95歳~ 99歳	100歳~	合計	
男	0	0	2	2	2	2	1	3	0	0	10	
女	0	0	1	0	1	2	8	10	7	3	32	
合計	0	0	1	2	3	4	9	13	7	3	42	
【最高年齢】	【最低年齢】											
男	92	男	73	男	83.71	全体	【平均年齢】					【平均在所期間】
女	102	女	69	女	90.35	88.44	2年1カ月					
【平均要介護度】												

入所者年齢構成



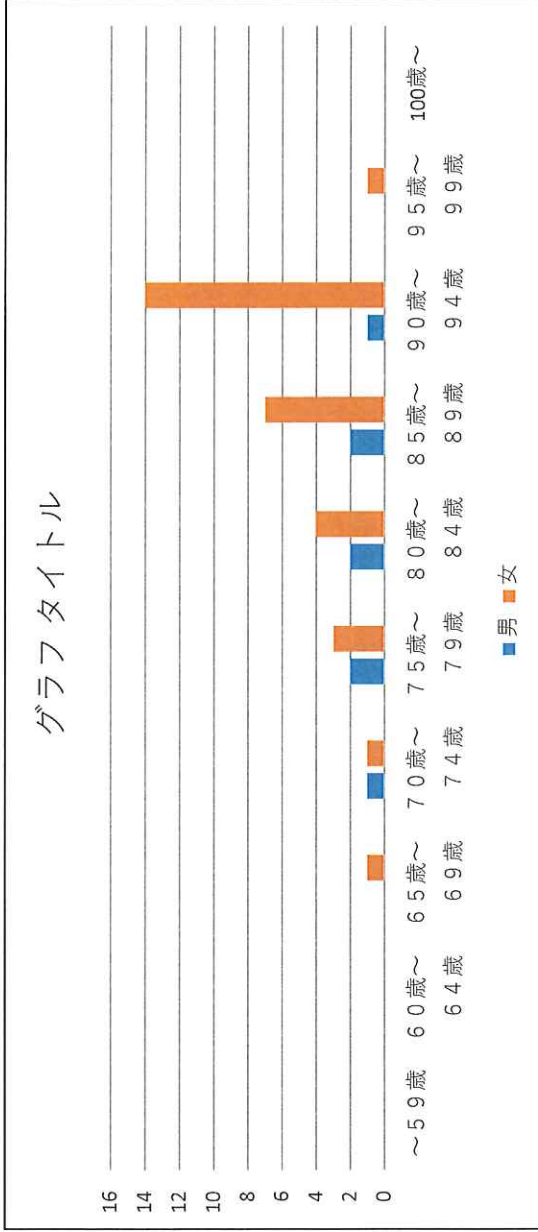
介護度

介護度	ユニット
令和1年度	3.9
令和2年度	3.9
令和3年度	3.9
令和4年度	3.8

介護老人福祉施設久喜ことぶき苑（多床室）利用者状況（令和3年3月末現在）

	～59歳	60歳～ 64歳	65歳～ 69歳	70歳～ 74歳	75歳～ 79歳	80歳～ 84歳	85歳～ 89歳	90歳～ 94歳	95歳～ 99歳	100歳～	合計		
男	0	0	0	1	2	2	2	1	0	0	8		
女	0	0	1	1	3	4	7	14	1	0	31		
合計	0	0	1	2	5	6	9	15	1	0	39		
【最高年齢】	【最低年齢】												
男	93	男	73	男	83.18	全体	【平均年齢】					2年2カ月	【平均要介護度】
女	97	女	68	女	87.15	86.4	【平均在所期間】						

グラフタイトル



介護度

	多床室
令和1年度	3.7
令和2年度	3.8
令和3年度	3.6
令和4年度	3.7

【ユニット】入所者の在籍状況及び理由別入退所（令和4年度）

	入所					退所							
	在宅	医療機関	社会福祉施設	介護老人保健施設	その他	計	在宅	長期入院	社会福祉施設	介護老人保健施設	死亡	その他	計
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	2
7月	2	0	1	0	0	3	0	1	0	0	1	0	2
8月	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
9月	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
10月	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
11月	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	2
2月	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
3月	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1
計	4	0	5	0	0	9	0	5	1	0	6	0	12

【多床室】入所者の在籍状況及び理由別入退所（令和4年度）

	入所					退所							
	在宅	医療機関	社会福祉施設	介護老人保健施設	その他	計	在宅	長期入院	社会福祉施設	介護老人保健施設	死亡	その他	計
4月	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	2
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
6月	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
1月	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
2月	1	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0
3月	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
計	3	0	3	3	0	9	0	3	0	0	4	0	7

入所の人数 (ユニット)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和1年	6	4	3	2	3	5	2	2	1	4	1	5	38
令和2年	2	4	3	0	0	2	1	0	2	1	0	3	18
令和3年	0	2	1	3	4	2	1	2	0	3	1	0	19
令和4年	0	0	1	3	1	0	0	1	0	1	1	1	9
入所者数	8	10	8	8	8	9	4	4	4	9	3	9	84

退所の人数 (ユニット)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和1年	1	0	0	0	0	2	1	1	0	1	1	0	7
令和2年	2	0	1	0	0	1	2	0	2	0	1	0	9
令和3年	2	1	1	0	0	1	1	1	2	0	1	4	14
令和4年	0	0	2	2	1	1	1	1	0	2	1	1	12
退所者数	5	1	4	2	1	5	5	3	4	3	4	5	42

入所の人数 (多床室)

多床室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和1年	0	0	0	3	1	0	0	2	1	0	1	0	8
令和2年	0	0	0	2	1	4	0	1	1	2	0	1	12
令和3年	0	1	1	1	0	2	2	0	0	1	2	0	10
令和4年	2	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	7
退所者数	2	2	1	6	3	7	2	3	3	4	3	1	37

退所の人数 (多床室)

多床室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和1年	8	1	3	4	1	6	1	7	3	4	2	0	40
令和2年	1	4	3	0	0	2	1	4	0	2	0	1	18
令和3年	0	0	0	1	1	1	0	1	3	0	1	1	9
令和4年	2	0	1	0	0	0	0	1	0	1	3	1	9
入所者数	11	5	7	5	2	9	2	13	6	7	6	3	76

○令和3年度利用者数実績

特養（ユニット＋多床室120床）稼働率

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
69.7%	67.8%	67.1%	67.5%	67.3%	66.7%	65.2%	65.5%	65.3%	65.4%	65.5%	66.7%	66.6%

特養（ユニット80床）稼働率

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
56.3%	56.3%	55.3%	55.0%	55.6%	55.2%	54.0%	54.2%	53.8%	54.4%	52.8%	52.1%	54.6%

特養（多床室40床）稼働率

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
96.7%	91.0%	90.6%	92.5%	90.7%	89.6%	57.5%	88.2%	88.5%	87.5%	90.8%	95.7%	90.8%

